

修訂日期 2007/01/04 発行日期 2007/3/7 発行単位 中華電子

仏典協会 (CBETA) <http://www.cbeta.org> 資料底本 大正新修

大正蔵経 Vol. 16 No. 663 原始資料 蕭鎮国大徳提供 維習安大

徳提供之高麗蔵 CD 经文 定広法師輸入 北美某大徳提供 No.

663 [Nos. 664 665]

金光明経序 真定府十方洪濟禅院住持 伝法慈覚大師宗頤述

夫 霊心絶待 泯万物而独存 妙行難思 諸縁普現 則實際理地

雖不受於一毫 而事相門中 不捨於一法 故如来出世 説金光明

経 依清浄心 建解脱行 顕出塵之経卷 永廓迷情 示伏蔵之宝

王 頓円大用 夫以信相為起教之人 則菩薩無滯空之行 於堅牢

有賛空之頌 則法身非有相之求 性相該通 有無互建 則一経之要

義在於斯 至於明諸仏法性之源 探如来寿量之本 金光普照 発

揚一切智門 金鼓騰声 顕示無辺妙用 則菩薩発行之源也 懺除

罪障 本如夢之法門 讚歎如来 挙修行之妙果 摩訶薩埵之飼虎

能捨能行 長者流水之済魚 有始有卒 則菩薩依真之行也 譬之

明月当天 影沈衆水 真金作器 体応万形 主伴円融 一多自在

能於一法 受一切法 則信如来之秘蔵 実為三界之宝乗 莊嚴性

海之門 趣向覚王之本 是以十千天子 聞而頓証於菩提 一切衆

生 入者皆同於甘露 則見聞随喜 読誦受持 於一念具了無上法

門者 豈小縁哉 凡我同儔 勉思仏意 元豊四年二月十五日序

金光明経卷第一 北涼三蔵法師曇無讖訳

金光明経序品第一

如是我聞 一時仏住王舎大城耆闍崛山 是時如来遊於無量甚深

法性諸仏行処 過諸菩薩所行清淨

是金光明 諸經之王 若有聞者

則能思惟 無上微妙 甚深之義

如是經典 常為四方 四仏世尊

之所護持 東方阿閼 南方宝相

西無量寿 北微妙声 我今當説

懺悔等法 所生功德 為無有上

能壞諸苦 尽不善業 一切種智

而為根本 無量功德 之所莊嚴

滅除諸苦 与無量樂 諸根不具

壽命損減 貧窮困苦 諸天捨離

親厚鬪訟 王法所加 各各忿諍

財物損耗 愁憂恐怖 惡星災異

衆邪蠱道 變怪相統 臥見惡夢

昼則愁惱 当淨洗浴 聽是經典

至心清淨 着淨絜衣 專聽諸仏

甚深行処 是經威徳 能悉消除

如是諸悪 令其寂滅 護世四王

將諸官属 并及無量 夜叉之衆

悉來擁護 持是經者 大弁天神

尼連河神 鬼子母神 地神堅牢

大梵尊天 三十三天 大神龍王

緊那羅王 迦楼羅王 阿修羅王

与其眷属 悉共至彼 擁護是人

昼夜不離 我今所説 諸仏世尊

甚深秘密 微妙行処 億百千劫
甚難得值 若得聞經 若為他說
若心隨喜 若設供養 如是之人
於無量劫 常為諸天 八部所敬
如是修行 生功德者 得不思議
無量福聚 亦為十方 諸仏世尊
深行菩薩 之所護持 着淨衣服
以上妙香 慈心供養 常不遠離
身意清淨 無諸垢穢 歡喜悅予
深樂是典 若得聽聞 當知善得
人身人道 及以正命 若聞懺悔
執持在心 是上善根 諸仏所讚

金光明經壽量品第二

爾時王舍城中 有菩薩摩訶薩名曰信相 已曾供養過去無量億那
由他百千諸仏 種諸善根 是信相菩薩作是思惟 何因何縁 釈迦
如來壽命短促方八十年 復更念言 如仏所説有二因縁壽命得長
何等為二 一者不殺 二者施食 而我世尊 於無量百千億那由他
阿僧祇劫 修不殺戒具足十善 飲食惠施不可限量 乃至己身骨髓
肉血 充足飽滿飢餓衆生 況余飲食 大士如是至心念仏 思是義
時其室自然広博嚴事天紺瑠璃種種衆宝 雜廁間錯以成其地 猶如
如來所居淨土 有妙香氣過諸天香 煙雲垂布遍滿其室 其室四面
各有四宝上妙高座自然而出 純以天衣而為敷具 是妙座上各有諸
仏所受用華衆宝合成 於蓮華上有四如來 東方名阿闍 南方名宝
相 西方名無量壽 北方名微妙聲 是四如來自然而坐獅子座上
放大光明照王舍城 及此三千大千世界 乃至十方恒河沙等諸仏世

界 雨諸天華作天妓樂 爾時三千大千世界所有衆生 以仏神力受
天快樂 諸根不具即得具足 拳要言之 一切世間所有利益 未曾
有事悉具出現 爾時信相菩薩 見是諸仏及希有事 歡喜踊躍恭敬
合掌 向諸世尊至心念仏 作是思惟 釈迦如来無量功德 唯壽命
中心生疑惑 云何如来壽命如是方八十年 爾時四仏 以正遍知告
信相菩薩 善男子 汝今不応思量如来壽命短促 何以故 善男子
我等不見諸天世人魔衆梵衆沙門婆羅門人及非人有能思算如来壽量
知其齊限 唯除如来 時四如来 將欲宣暢釈迦文仏所得壽命 欲
色界天 諸龍鬼神乾闥婆阿修羅樓羅緊那羅摩睺羅伽 及無量百
千億那由他菩薩摩訶薩 以仏神力悉來聚集信相菩薩摩訶薩室 爾
時四仏 於大衆中略以偈諭説釈迦如来所得壽量 而作頌曰
一切諸水 可知幾滴 無有能數
釈尊壽命 諸須弥山 可知斤兩
無有能量 釈尊壽命 一切大地
可知塵数 無有能算 釈尊壽命
虚空分界 尚可尽辺 無有能計
釈尊壽命 不可計劫 億百千万
仏壽如是 無量無辺 以是因縁
故説二縁 不害物命 施食無量
是故大士 壽不可計 無量無辺
亦無齊限 是故汝今 不応於仏
無量壽命 而生疑惑
爾時信相菩薩摩訶薩 聞是四仏宣説如来壽命無量 深心信解 歡
喜踊躍 説是如来壽量品時 無量無辺阿僧祇衆生 発阿耨多羅三
藐三菩提心 時四如来忽然不現

金光明經懺悔品第三

爾時信相菩薩 即於其夜夢見金鼓 其狀殊大其明普照喻如日光
復於光中得見十方無量無辺諸仏世尊 衆宝樹下坐瑠璃座 与無量
百千眷属围绕而為説法 見有一人似婆羅門 以枹擊鼓出大音声
其声演説懺悔偈頌 時信相菩薩 從夢寤已 至心憶念夢中所聞懺
悔偈頌 過夜至旦出王舍城 爾時亦有無量無辺百千衆生 与菩薩
俱往耆闍崛山至於仏所 至仏所已頂礼仏足右繞三匝 却坐一面敬
心合掌 瞻仰尊顔目不暫捨 以其夢中所見金鼓及懺悔偈 向如来

説

昨夜所夢 至心憶持 夢見金鼓

妙色晃耀 其光大盛 明踰於日

遍照十方 恒沙世界 又因此光

得見諸仏 衆宝樹下 坐瑠璃座

無量大衆 围绕説法 見婆羅門

擊是金鼓 其鼓音中 説如是偈

是大金鼓 所出妙音 悉能滅除

三世諸苦 地獄餓鬼 畜生等苦

貧窮困苦 及諸有苦 是鼓所出

微妙之音 能除衆生 諸惱所逼

断衆怖畏 令得無懼 猶如諸仏

得無所畏 諸仏聖人 所成功德

離於生死 到大智岸 如是衆生

所得功德 定及助道 猶如大海

是鼓所出 如是妙音 令衆生得

梵音深遠 証仏無上 菩提勝果

今者懺悔 こんしゃさんげ	兩足之尊 りょうそくしそん	在在処処 ざいざいししよ	今當証知 こんとうしやうち	我為是等 が いぜとう	一切諸苦 いっさいしよく	如是金鼓 に よぜこんく	諸苦所切 しよくしよせつ	當今是等 とうりやうぜとう	焚燒其身 ほんしやうごしん	若有衆生 にやぐうしゆじやう	所出之音 しよすいしおん	隨其所思 ずいごしよし	白淨之業 びやくじやうしごう	遠離一切 おんりいっさい	所出妙音 しよすいみやうおん	亦聞無上 やくもんむじやう	千萬億生 せんまんのくしやう	亦令衆生 やくりやうしゆじやう	微妙音声 みみやうおんじやう	大火熾然 だいかしねん	悉令寂滅 しつりやうじやくめつ	能害煩惱 のうがいぼんのう	不思議劫 ふしぎごう	轉無上輪 てんむじやうりん
諸十力前 しよじゆうりきぜん	我本所作 がほんしよさ	十方諸仏 じつぽうしよぶつ	久已於我 くいおが	作歸依処 さきえしよ	無依無歸 むえむき	所出之音 しよしゆつしおん	三惡道報 さんまくどうほう	悉滅諸苦 しつめつしよく	無有救護 むうくご	墮大地獄 だだいじごく	皆悉能令 かいしつのうりやう	諸所願求 しよしよがんぐ	諸天世人 しよてんせにん	諸惡業等 しよあくごうとう	復令衆生 ぶりやうしゆじやう	微妙之言 みみやうしごん	令心正念 りやうしんしやうねん	得知宿命 とくちしゆくみやう	所出言教 しよすいごんぎやう	燒炙其身 しやうしやくしん	若有衆生 にやぐうしゆじやう	消除諸苦 しやうじよしよく	演說正法 えんせつしやうほう	微妙清淨 みみやうしよじやう
不識諸仏 ふしきしよぶつ	惡不善業 あくふぜんごう	現在世雄 げんざいせおう	生大悲心 しやうだいひしん	是諸世尊 ぜしよせそん	無有救護 むうくご	悉能滅除 しつのおめつじよ	及以人中 ぎやうい にんじやう	若有衆生 にやぐうしゆじやう	流轉諸難 るてんしよなん	猛火炎熾 みやうかえんし	成就具足 じやうじゆぐそく	如是金鼓 に よぜこんく	及余衆生 ぎやうよ しゆじやう	善修無量 ぜんしゆむりやう	值遇諸仏 ちぐうしよぶつ	是金鼓中 ぜこんくちやう	諸仏世尊 しよぶつせそん	百生千生 ひやくしやうせんしやう	即尋禮仏 そくじんらいぶつ	若聞金鼓 にやぐもんこんく	処在地獄 しよざいじごく	貪瞋痴等 とんじんちとう	利益衆生 りやくしゆじやう	住壽無量 じゆうじゆむりやう

住十地者 じゅうじちしや	阿僧祇衆 あそうぎしゆ	所有諸苦 しやうしよく	我当拔濟 がとうばつさい	無量無辺 むりやうむへん	如是衆罪 によぜしゆざい	驕慢放逸 きやうまんほういつ	如是衆罪 によぜしゆざい	誹謗正法 ひぼうしやうほう	如是衆罪 によぜしゆざい	今悉懺悔 こんしつさんげ	或不恭敬 わくふくぎやう	所集三業 しよじゅうさんごう	諸結惱熱 しよけつのおねつ	造作衆惡 ぞうさしゆあく	貪欲恚痴 とんよくいぢ	常有怖畏 じやううふい	貧窮因緣 びんぐういんねん	故作衆惡 こさしゆあく	五欲因緣 ごよくいんねん	無知闇覆 むぢあんぷく	隨心所作 ずいしんしよさ	作諸惡行 さしよあくぎやう	自恃種姓 じじしゆしやう	及父母恩 ぎやうぶもおん
悉令具足 しつりやうぐそく	令住十地 りやうじちじ	我当安止 がとうあんし	十方一切 じつぽういっさい	三千大千 さんぜんだいせん	今悉懺悔 こんしつさんげ	因貪恚痴 いんとんいぢ	今悉懺悔 こんしつさんげ	不知恭敬 ふちくぎやう	今悉懺悔 こんしつさんげ	或不恭敬 わくふくぎやう	佛法聖衆 ぶつぽうしやうじゆ	如是衆罪 によぜしゆざい	造作衆惡 ぞうさしゆあく	依因衣食 えいんえじき	擾動其心 にやうどうごしん	不得自在 ふとくじざい	姦諂作惡 かんでんさあく	親近非聖 しんこんひしやう	心生忿恚 しんしやうふんい	親近惡友 しんこんあくう	不見其過 ふけんごか	心念不善 しんねんふぜん	及諸財寶 ぎつしよざいほう	不解善法 ふげぜんほう
如来正覺 にょらいしやうがく	已得安止 いとくあんし	不可思議 ふかしぎ	無量衆生 むりやうしゆじやう	世界諸仏 せかいしよぶつ	我今供養 がこんくやう	造作諸惡 ぞうさしよあく	愚惑所覆 ぐわくしよぷく	父母尊長 ぶもそんじやう	以無智故 いむちこ	緣覺菩薩 えんがくぼさつ	如是衆罪 によぜしゆざい	今悉懺悔 こんしつさんげ	身口意惡 しんくいあく	及以女色 ぎやういによしき	渴愛所逼 かつあいしよひつ	而造諸惡 にぞうしよあく	繫屬於他 けぞくおた	因生慳嫉 いんしやうけんしつ	不知厭足 ふちえんそく	煩惱亂心 ぼんのうらんしん	凡夫愚行 ほんぶぐざやう	口作惡業 くさあくごう	盛年放逸 じやうねんほういつ	造作衆惡 ぞうさしゆあく

現所作罪	洗除令淨	惟願現在	悉得消除	願當受我	大悲世尊	在在處處	愁熱驚懼	以是因緣	哀受我悔	諸佛世尊	諸陀羅尼	百千禪定	無量功德	諸佛所有	功德光明	十種珍寶	一切業障	是金光明	悉皆滅盡	若能至心	滅除諸惡	演說微妙	令度苦海	為一衆生
誠心發露	過去諸惡	諸佛世尊	我之所有	誠心懺悔	能除衆生	暫無歡樂	怖畏惡業	生大憂苦	若我百劫	有大慈悲	十力世尊	根力覺道	一切種智	甚深法藏	令諸衆生	以為脚足	我當安止	清淨微妙	我今已說	一懺悔者	千劫所作	甚深悔法	我當為是	億劫修行
所未作者	今悉懺悔	以大悲水	煩惱業垢	令我恐懼	一切怖畏	十方現在	心常怯劣	貧窮困乏	所作衆惡	當証微誠	我當成就	不可思議	願悉具足	不可思議	度三有海	成仏無上	住於十地	速能滅除	懺悔之法	如是衆罪	極重惡業	所謂金光	諸衆生等	使無量衆

如月清涼 によがつしやうりやう	煩惱火熾 ぼんのうかかし	離諸塵翳 りしよじんえい	仏日大悲 ぶつにちだいひ	如紺瑠璃 によこんるり	其色無上 ごしきむじやう	猶如須弥 ゆうによしゆみ	是故我今 ぜごがこん	今悉懺悔 こんしつさんげ	修功德難 しゆくどくなん	及三毒難 ぎゆうさんどくなん	心輕躁難 しんきやうそうなん	愚煩惱難 ぐぼんのうなん	世間所有 せけんしやう	造作衆惡 ぞうさしゆあく	若在諸有 にやくざいしやう	身口意業 しんくいごう	所有善法 しやうぜんぽう	誠心懺悔 じやうしんさんげ	所造惡業 しよぞうあくごう	修行十善 しゆぎやうじゆうぜん	十種惡業 じつしゆあくごう	今悉懺悔 こんしつさんげ	身業三種 しんごうさんしゆ	更不敢作 ぎやうふかんさ
三十二相 さんじゆうにそう	令心焦熱 りやうしんしやうねつ	無上仏日 むじやうぶつにち	滅一切闇 めついつさいあん	功德威神 くどくいじん	如天真金 によてんしんこん	是故我今 ぜごがこん	敬礼仏海 きやうらいぶつかい	諸仏世尊 しよぶつせそん	値仏亦難 ちぶつやくなん	遇無難難 ぐむなんなん	近惡友難 こんあくうなん	如是諸難 によぜしよなん	生死險難 しやうじけんなん	今於仏前 こんおぶつぜん	六趣險難 ろくしゆけんなん	願於來世 がんおらいせ	悉以廻向 しついえこう	若此国土 にやくしこくど	心受惡報 おうじゆあくほう	安止十住 あんしじゆうじゆう	一切懺悔 いつさいさんげ	身口所作 しんくしよさ	口業有四 くごうし	已作之業 いさしごう
八十種好 はちじつしゆこう	唯仏能除 ゆいぶつのおじよ	大光普照 だいこうふしやう	善淨無垢 ぜんじやうむく	名稱顕着 みやうしやうけんちやく	眼目清淨 げんもくしやうじやう	頂礼最勝 ちやうらいさいしやう	金色晃耀 こんじきこうやう	我所依止 がしよえじ	如是諸難 によぜしよなん	值好時難 ちこうじなん	三有險難 さんうけんなん	我今懺悔 がこんさんげ	種種淫欲 しゆじゆいんによく	皆悉懺悔 かいしつさんげ	愚痴無智 ぐちむち	証無上道 しやうむじやうどう	我所修行 がしよしゆぎやう	及余世界 ぎやうよせかい	今於仏前 こんおぶつぜん	逮十力尊 たいじゆうりきそん	遠離十惡 おんりじゆうあく	及以意思 ぎやういし	意三業行 いさんごうぎやう	不敢覆蔵 ふかんふくぞう

充足衆生	清淨法輪	摧伏諸魔	利益衆生	來世不久	令衆皆得	相好莊嚴	亦可知數	大地諸山	極心思惟	一切有心	亦不可得	諸須彌山	其量難知	是故我今	遍照一切	妙身莊嚴	最為鹿洩	潦水波蕩	莊嚴仏日	頗梨白銀	種種各異	猶如瑠璃	明網顕耀	莊嚴其身
甘露法味	住壽無量	及其眷屬	度脱一切	成於仏道	我以善業	名稱讚歎	諸仏功德	尚可知量	不能得知	無能知者	諸仏亦爾	難可度量	大地微塵	稽首敬礼	智慧大海	相好殊特	如來網明	悩乱我心	三有之中	校飾光網	其色紅赤	淨無瑕穢	安住三界	視之無厭
我當具足	不思議劫	転於無上	無量諸苦	講宣妙法	諸因縁故	如是功德	無能知者	毛滴海水	仏功德辺	於無量劫	功德無量	虚空辺際	不可称計	如大海水	彌満三界	金色光明	能令枯涸	其味苦毒	生死大海	如是種種	如日初出	妙色広大	如日照世	功德巍巍

人所喜見 にんしよきけん	衆生相視 しゆじやうしやうし	安隱快樂 あんいんけらく	倉庫盈溢 そうこやういつ	裸者得衣 らしゃとくえ	盲者得視 もうしゃとくし	飢渴所惱 けかつしよのう	願使一切 がんしいつさい	擾乱其心 にやうらんごしん	無量百千 むりやうひやくせん	繫縛枷鎖 けばくかさ	如是之人 によぜしにん	臨当刑戮 りんとうぎやうりく	還得勢力 げんとくせいりき	無救護者 むくごしゃ	十方世界 じつぽうせかい	諸根毀壞 しよこんきえ	無量苦惱 むりやうくのう	修諸善業 しゆしよぜんごう	我因善業 がいんぜんごう	正念諸仏 しやうねんしよぶつ	百生千生 ひやくしやうせんしやう	及患痴等 ぎやういぢとう	斷諸煩惱 だんしよぼんのう	六波羅蜜 ろくはらみつ	
心常思念 しんじやうしねん	和顏悅色 わげんえつしき	乃至無有 ないしむ	無所乏少 むしよぼうしやう	貧窮之者 びんぐうししゃ	聾者得聽 ろうしゃとくちやう	令得種種 りやうとくしゆじゆ	悉得解脱 しつとくげだつ	如是无辺 によぜむへん	愁憂驚畏 じゆうきやうい	種種苦事 しゆじゆくじ	悉令解脱 しつりやうげだつ	無量怖畏 むりやうふい	平復如本 びやうふによほん	悉令解脱 しつりやうげだつ	所有病苦 しやうびやうく	不具足者 ふぐそくしゃ	我当悉滅 がとうしつめつ	一切世界 いつさいせかい	常值諸仏 じやうちしよぶつ	所說微妙 しよせつみまう	千萬億生 せんまんのくしやう	我當憶念 がとうおくねん	除一切苦 じよいつさいく	猶如過仏 ゆうによかぶつ	
他人善事 たにんぜんじ	形貌端嚴 ぎやうみやうたんごん	一人受苦 いちにんじゆく	一切皆受 いつさいかいじゆ	即得宝蔵 そくとくほうぞう	啞者得言 あしゃとくごん	甘美飲食 かんみおんじき	若有衆生 にやくしゆじやう	諸苦惱等 しよくのうとう	種種恐懼 しゆじゆく	逼切其身 ひつせつごしん	若受鞭撻 にやくじゆへんだつ	若犯王法 にやくほんおうほう	愁憂苦惱 じゆうくのう	若犯王法 にやくほんおうほう	如是諸苦 によぜしよく	羸瘦頓乏 るいそうとんぼう	悉令具足 しつりやうぐそく	若有衆生 にやくしゆじやう	所有衆生 しやうしゆじやう	遠離諸惡 おんりしよあく	無上正法 むじやうしやうほう	常當至心 じやうとうししん	宿命之事 しゆくみやうじ	悉滅貪欲 しつめつとんよく	之所成就 ししよじやうじゆ

勤心修習 ごんしんしゆじゆう	精勤不懈 しやうごんふけ	願諸女人 がんにしよにょにん	莊嚴其身 しやうごんごしん	多饒財宝 たにやうざいほう	無上之王 むじやうしおう	三悪八難 さんまくはちなん	聲聞大衆 しやうもんだいしゆ	無上妙法 むじやうみやうほう	常得供養 じやうとくくやう	衆生受者 しゆじやうじゆしや	常於三時 じやうおさんじ	如其所須 にょごしよしゆ	悉令具足 しつりやうぐそく	世間所有 せけんしやう	色貌微妙 しきみやうみみやう	乃至無有 ないしむ	雜廁瓔珞 ざつしやうらく	錢財珍寶 せんざいちんほう	之所思念 ししよしねん	金華遍布 こんけへんぷ	微妙音声 みみやうおんじやう	箜篌箏笛 くごしやうじやく	之所思念 ししよしねん	飲食飽滿 おんじきほうまん
六波羅蜜 ろくはらみつ	一切皆行 いっさいかいぎやう	皆成男子 かいじやうなんし	功德成就 くどくじやうじゆ	安隱豊樂 あんのおんぶらく	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	值無難処 ちむなんしよ	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	清淨無垢 しやうじやうむく	不可思議 ふかしぎ	歡喜快樂 かんぎけらく	雨細抹香 うさいまつかう	応念即得 おうねんそくとく	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	資生之具 ししやうしぐ	各各相於 かくかくそうお	可惡見者 かあくけんしや	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	金銀瑠璃 こんごんるり	即得種種 そくとくしゆじゆ	及優鉢羅 ぎやううはら	江河池沼 かうがちしやう	琴瑟鼓吹 きんしつぐすい	皆願令得 かいがんにやうとく	功德具足 くどくぐそく
常見十方 じやうけんじつぽう	菩薩之道 ぼさつしどう	具足智慧 ぐそくちえ	有大名稱 うだいまうしやう	上妙色像 じやうみやうしきぞう	常生尊貴 じやうしやうそんき	觀觀諸仏 こんとしよぶつ	常得遠離 じやうとくおんり	及諸菩薩 ぎつしよぼさつ	十方諸仏 じつぽうしよぶつ	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	及塗身香 ぎやうずしんかう	香華諸樹 かうげしよじゆ	諸所求索 しよしよぐしやく	隨其所念 ずいごしよねん	共相愛念 ぐうそうあいねん	願諸衆生 がんにしよしゆじやう	不聞惡声 ふもんあくしやう	真珠璧玉 しんじゆひやくぎよく	衣服飲食 えぶくおんじき	隨諸衆生 ずいしよしゆじやう	流泉諸水 るせんしよすい	如是種種 にょぜしゆじゆ	種種妓樂 しゆじゆぎがく	隨諸衆生 ずいしよしゆじやう

種諸善根	若於無量	五仏十仏	輔相大臣	悉皆成就	諸根具足	并讚此偈	若有恭敬	及善女人	便得超越	無諸疑網	若有敬礼	成無上道	及身口意	隨其歡喜	所作種種	及余他方	除諸苦惱	彌密堅固	若諸衆生	不滿意者	所作惡業	衆所樂聞	安住禪定	無量諸仏
然後乃得	百千萬億	種諸功德	之行恭敬	在在處處	清淨端嚴	在在生處	合掌向仏	諸王刹利	六十劫罪	能作如是	讚歎十力	得淨無垢	所作善業	我今以此	善妙功德	無量世界	早成菩提	願以智刀	三有繫縛	願悉滅尽	諸有險難	若我現在	自在快樂	坐寶樹下
聞是懺悔	諸仏如来	聞是懺悔	非於一仏	常為國王	種種功德	常識宿命	稱歎如来	婆羅門等	諸善男子	所説懺悔	信心清淨	吉祥果報	願於來世	隨喜功德	我今深心	所有衆生	若此閻浮	割斷破裂	生死羅網	令無有余	応得惡果	及過去世	演説正法	瑠璃座上

金光明經讚歎品第四

爾時仏告地神堅牢 善女天 過去有王名金龍尊 常以讚歎 讚
歎去來現在諸仏 敬禮讚歎 去來現在 微妙寂滅 於諸聲中 深遠雷音 蜂翠孔雀 猶如珂雪 其目修広 映水開敷 光明照耀 白如珂月 眉細修揚 過於蜂王 微妙柔軟 次第最上 一一毛孔 猶孔雀項 普照十方 一切諸苦 地獄畜生 安隱無患 身色微妙 如月盛満

我今尊重 敬禮讚歎 去來現在 微妙寂滅

十方諸仏 諸仏清淨 去來現在 微妙寂滅

色中上色 金光照耀 於諸聲中 深遠雷音

仏声最上 猶如大梵 深遠雷音 蜂翠孔雀

其髮紺黒 光螺焰起 蜂翠孔雀 猶如珂雪

色不得喻 其齒鮮白 猶如珂雪 其目修広

顕発金顔 分齊分明 其目修広 映水開敷

清淨無垢 如青蓮華 映水開敷 光明照耀

舌相広長 形色紅輝 光明照耀 白如珂月

如華初生 眉間毫相 眉間毫相 眉細修揚

右旋潤沢 如淨瑠璃 如淨瑠璃 過於蜂王

形如月初 其色黒耀 其色黒耀 微妙柔軟

鼻高円直 如鑄金鋌 如鑄金鋌 次第最上

当于面門 如来勝相 如来勝相 一一毛孔

得味真正 無与等者 無与等者 猶孔雀項

一毛旋生 軟細紺青 軟細紺青 普照十方

即於生時 身放大光 身放大光 一切諸苦

無量国土 滅尽三界 滅尽三界 地獄畜生

令諸衆生 悉受快樂 悉受快樂 安隱無患

及以餓鬼 諸人天等 諸人天等 身色微妙

悉滅一切 無量惡趣 無量惡趣 如月盛満

如融金聚 面貌清淨 面貌清淨 如月盛満

与諸衆生	悉皆清淨	我今以礼	知其滴数	乃至有頂	諸仏功德	尚不能尽	微妙第一	如来所有	於千劫中	百千功德	意亦如是	如是如来	数如微塵	手足淨軟	莊嚴仏身	本所修習	照無量界	悉能隱蔽	一切仏刹	仏身淨妙	能照無量	猶如風動	猶如獅子	仏身明耀
証無上道	一切所修	讚歎諸仏	無有能知	滿其中水	大地及天	功德少分	設復千舌	現世功德	歎仏功德	讚詠歌歎	以妙香華	我今悉礼	現在諸仏	敬愛無厭	臂傭織円	百千行業	皆令衆生	無量日月	仏光巍巍	無諸垢穢	猶如聚集	娑羅樹枝	修臂下垂	如日初出
如是人王	無量善業	身口意業	仏一功德	尚以一毛	以為大海	況欲歎美	欲讚一仏	種種深固	不能得尽	設以百舌	供養奉獻	身口清淨	亦復如是	去來諸仏	如象王鼻	聚集功德	尋光見仏	仏日灯炬	明焰熾盛	其明普照	百千日月	円光一尋	立過于膝	進止威儀

懺悔力故	猶如大海	清淨具足	我功德海	及以業海	以此金光	行菩薩道	施与衆生	及依止処	我於当来	無救護者	常生我家	得受記莢	以此果報	無与等者	然後我身	修行六度	夜則夢見	甚難得值	諸仏功德	面貌清淨	得聞懺悔	在在生処	若我来世	讚歎仏已
菩提功德	珍寶具足	無量功德	願悉成就	煩惱大海	懺悔因縁	不計劫数	諸善安樂	能除衆苦	為是等輩	衆苦逼切	同共受記	并令二子	当来之世	奉貢金鼓	成無上道	濟拔衆生	昼如実説	願於当来	不可思議	願我来世	深奥之声	常於夢中	無量無辺	復作如是
光明無礙	以此金光	助菩提道	智慧大海	悉竭無余	使我惡海	如尽本際	我未来世	悉令滅尽	作大救護	無所依止	若有衆生	金龍金光	值积迦仏	讚仏因縁	令我世界	越於苦海	我当具足	無量之世	於百千劫	亦得如是	今所讚歎	見妙金鼓	阿僧祇劫	無量誓願

慧光無垢 照徹清淨 我當來世
 身光普照 功德威神 光明焰盛
 於三界中 最勝殊特 諸功德力
 無所減少 當度衆生 越於苦海
 并復安置 功德大海 來世多劫
 行菩提道 如昔諸佛 行菩提者
 三世諸佛 淨妙国土 諸佛至尊
 無量功德 令我來世 得此殊異
 功德淨土 如仏世尊 信相當知
 爾時國王 金龍尊者 則汝身是
 爾時二子 金龍金光 今汝二子
 銀相等是

金光明經空品第五
こんこうみょうきょうくうほんだいご

無量余經 已広説空 是故此中
 略而解説 衆生根鈍 尠於智慧
 不能広知 無量空義 故此尊經
 略而説之 異妙方便 種種因縁
 為鈍根故 起大悲心 今我演説
 此妙經典 如我所解 知衆生意
 是身虚偽 猶如空聚 六入村落
 結賊所止 一切自住 各不相知
 眼根受色 耳分別声 鼻嗅諸香
 舌嗜於味 所有身根 貪受諸触
 意根分別 一切諸法 六情諸根
 各各自縁 諸塵境界 不行他縁

從本不實	性無和合	如是諸大	及以衆生	善女當觀	無可愛樂	大小不淨	而墮諸有	隨業受報	性輕上升	地水二蛇	諸方亦二	四大虬蛇	共相殘害	地水火風	妄想故起	從諸因緣	不可長養	隨逐諸塵	如鳥投網	隨行色聲	六根境界	六賊所害	分別諸法	心如幻化
和合而有	以是因緣	一一不實	本性空寂	諸法如是	捐棄塚間	盈流於外	水火風種	人天諸趣	心識二性	其性沈下	如是蛇大	其性各異	猶如四蛇	合集成立	業力機關	和合而有	無有諍訟	無有暫捨	其心在在	香味觸法	各各自知	愚不知避	猶如世人	馳騁六情
無明體相	我說諸大	本自不生	無明故有	何処有人	如朽敗木	體生諸虫	散滅壞時	隨所作業	躁動不停	風火二蛇	悉滅無余	二上二下	同処一篋	隨時增減	假為空聚	無有堅實	亦無正主	身空虛偽	常処諸根	心処六情	所伺之処	心常依止	馳走空聚	而常妄想

真珠瓔珞 しんじゆようらく	頭目髓腦 ずもくずいのう	眞実法身 しんじつほつしん	堅固修習 けんこしゆじゆう	遵修諸行 じゆんしゆしよぎよう	充足是輩 じゆうそくぜはい	無所依止 むしよえじ	煩惱熾然 ぼんのうしねん	於生死海 おしやうじかい	豎立第一 じゆりゆうだいいち	雨勝法雨 うしやうほうう	吹大法螺 すいだいほうら	処甘露室 しよかんろしつ	開甘露門 かいかんろもん	觀悉空寂 かんしつくうじやく	以智慧刀 いちえとう	心行所造 しんぎやうしよぞう	本無有生 ほんむうしやう	不可思議 ふかしぎ	愛取有生 あいしゆうしやう	名曰無明 みやうわつむみやう	無所有故 むしやうこ	本自不有 ほんじふう
金銀瑠璃 こんごんるり	所愛妻子 しよあいさいし	捨諸所重 しやしよしよじゆう	菩提之道 ぼだいしどう	供養恭敬 くやうくぎやう	令離焦熱 りやうりしやうねつ	我以甘露 がいかんろ	燒諸衆生 しやうしよしゆじやう	永斷三惡 やうだんさんまく	微妙法幢 みみょうほうどう	我今摧伏 がこんさいふく	擊大法鼓 きやくだいほく	令諸衆生 りやうしよしゆじやう	示甘露器 じかんろき	証無上道 しやうむじやうどう	裂煩惱網 れつぼんのうもう	我斷一切 がだんいつさい	亦無和合 やくむわごう	生死無際 しやうじむさい	老死愁惱 らうしじゆのう	行識名色 ぎやうしきみやうしき	假名無明 けみやうむみやう	妄想因縁 もうそういんねん
種種異物 しゆじゆいもつ	錢財珍寶 せんざいちんぼう	肢節手足 しせつしゆそく	求於如來 ぐおにやらい	諸仏世尊 しよぶつせそん	於無量劫 おむりやうこ	清涼美味 しやうりやうみ	無有救護 むうくこ	無量苦惱 むりやうくのう	度諸衆生 どしよしゆじやう	一切怨結 いつさいおんけつ	然大法炬 ねんだいほうこ	食甘露味 じきかんろみ	入甘露城 にゆうかんろじやう	微妙功德 みみょうくどく	五陰舍宅 ごおんしやたく	諸見纏等 しよけんてんどう	不善思惟 ふぜんしゆい	輪轉不息 りんてんふそく	衆苦行衆 しゆくぎやうしゆ	六入觸受 ろくにゆうそくじゆ	是故我說 ぜこがせつ	和合而有 わごうにう

金光明經卷第一

金光明經卷第二 北涼三藏法師曇無讖識

金光明經四天王品第六

爾時毘沙門天王 提頭賴咤天王 毘留勒叉天王 毘留博叉天王
俱從座起偏袒右肩 右膝着地胡跪合掌 白仏言 世尊 是金光明
微妙經典衆經之王 諸仏世尊之所護念 莊嚴菩薩深妙功德 常為
諸天之所恭敬 能令天王心生歡喜 亦為護世之所讚歎 此經能照
諸天宮殿 是經能與衆生快樂 是經能令地獄餓鬼畜生諸河焦乾枯
竭 是經能除一切怖畏 是經能却他方怨賊 是經能除穀貴饑饉
是經能愈一切疫病 是經能滅惡星變異 是經能除一切憂惱 拳要
言之 是經能滅一切衆生無量無辺百千苦惱 世尊 是金光明微妙
經典 若在大衆広宣説時 我等四王及余眷属 聞此甘露無上法味
増益身心進勇銳具諸威徳 世尊 我等四王 能説正法修行正法
為世法王以法治世 世尊 我等四王及天龍鬼神 乾闥婆阿修羅迦
樓羅緊那羅摩睺羅伽 以法治世 遮諸惡鬼噉精气者 世尊 我等
四王二十八部諸鬼神等 及無量百千鬼神 以淨天眼過於人眼 常
觀擁護此閻浮提 世尊 是故我等名護世王 若此国土有諸衰耗怨
賊侵境饑饉疾疫種種艱難 若有比丘受持是經 我等四王當共勸請
令是比丘以我力故 疾往彼所国邑郡県 広宣流布是金光明微妙經
典 今如是等種種百千衰耗之事悉皆滅尽 世尊 如諸国王所有土
境 是持經者若至其国 是王应当往是人所聽受如是微妙經典 聞
已歡喜復當護念恭敬是人 世尊 我等四王 復當勤心擁護是王及
国人民 為除衰患令得安隱 世尊 若有比丘比丘尼優婆塞優婆夷
受持是經 若諸人王有能供給施其所安 我等四王 亦當令是王及
国人民一切安隱具足無患 世尊 若有四衆受持誦誦是妙經典 若
諸人王有能供養恭敬尊重讚歎 我等四王 亦復當令如是人王於諸
王中常得第一供養恭敬尊重讚歎 亦令余王欽尚羨慕稱讚其善

爾時世尊讚歎護世四天王等 善哉善哉 汝等四王 過去已曾供
養恭敬尊重讚歎無量百千萬億諸佛 於諸佛所種諸善根 說於正法
修行正法 以法治世為人天王 汝等今日長夜利益於諸衆生行大悲
心 施與衆生一切樂具 能遮諸惡勤與諸善 以是義故 若有人王
能供養恭敬此金光明微妙經典 汝等正應如是護念 滅其苦惱與其
安樂 汝等四王及諸眷屬 無量無辺百千鬼神 若能護念如是經者
即是護持去來現在諸佛正法 汝等四王及余天衆百千鬼神 與阿修
羅共戰鬥時 汝等諸天常得勝利 汝等若能護念此經 悉能消伏一
切諸苦 所謂怨賊饑饉疾疫 若四部衆有能受持誦誦此經 汝等亦
心勤心守護 為除衰惱施與安樂 爾時四王復白佛言 世尊 是金
光明微妙經典 於未來世在所流布 若國土城邑郡縣村落隨所至處
若諸國王以天律治世 復能恭敬至心聽受是妙經典 并復尊重供養
供給持是經典四部之衆以是因緣 我等時時得聞如是微妙經典 聞
已即得增益身力 心進勇銳具諸威德 是故我等及無量鬼神 常當
隱形隨其妙典所流布處 而作擁護令無留難 亦當護念聽是經典諸
國王等及其人民 除其患難悉令安隱 他方怨賊亦使退散 若有人
王聽是經時 隣國怨敵興如是念 當具四兵壞彼國土 世尊 以是
經典威神力故 爾時隣敵更有異怨為作留難 於其境界起諸衰惱災
異疫病 爾時怨敵起如是等諸惡事已 備具四兵 爰向是國規往討
罰我等爾時 當與眷屬無量無辺百千鬼神 隱蔽其形為作護助 令
彼怨敵自然退散 起諸怖懾種種留難 彼國兵衆尚不能到 況復當
能有所破壞

爾時佛讚四天王等 善哉善哉 汝等四王 乃能擁護我百千億那
由他劫所可修習阿耨多羅三藐三菩提 及諸人王受持是經恭敬供養
者 為消衰患令其安樂 復能擁護宮殿舍宅城邑村落國土辺疆 乃

至怨賊悉令退散 滅其衰惱令得安隱 亦令一切閻浮提內所有諸王

無諸凶衰鬪訟之事 四王當知 此閻浮提八万四千城邑聚落 八万

四千諸人王等 各於其國娛樂快樂 各各於國而得自在 於自所有

錢財珍寶 各各自足不相侵奪 如其宿世所修集業隨業受報 不生

惡心貪求他國 各各自生利益之心 生於慈心安樂之心不諍訟心不

破壞心無繫縛心無楚撻心 各於其土自生愛樂 上下和睦猶如水乳

心相愛念增諸善根 以是因緣故 此閻浮提安隱豐樂 人民熾盛大

地沃壤 陰陽調和時不越序 日月星宿不失常度 風雨隨時無諸災

橫 人民豐實自足於財心無貪吝 亦無嫉妬等行十善 其人壽終多

生天上 天宮充滿增益天衆 若未來世有諸人王聽是經典 及供養

恭敬受持是經四部之衆 是王則為安樂利益汝等四王及余眷屬無量

百千諸鬼神等 何以故 汝等四王 若得時時間是經典 則為已得

正法之水 服甘露味增益身力 心進勇銳具諸威德 是諸人王 若

能至心聽受是經 則為已能供養於我 若供養我則是供養過去未來

現在諸仏 若能供養過去未來現在諸仏 則得無量不可思議功德之

聚 以是因緣 是諸人王得擁護 及后妃嫔女中宮眷屬諸王子等

亦応得護 衰惱消滅快樂熾盛 宮殿堂宇安隱清淨無諸災變 護宅

之神增長威德 亦受無量歡悅快樂 是諸国土所有人民 悉受種種

五欲之樂 一切惡事悉皆消滅

爾時四天王白仏言 世尊 未來之世若有人王 欲得護身及后妃

嫔女諸王子等宮殿屋宅 得第一護身所王領最為殊勝 具不可思議

王者功德 欲得撰取無量福聚 国土無有他方怨賊 無諸憂惱及諸

苦事 世尊 如是人王 不応放逸散乱其心 応生恭敬謙下之心

応当莊嚴第一微妙最勝宮宅 種種香汁持用洒地 散種種華敷大法

座獅子之座 兼以無量珍琦異物而為校飾 張施種種無數微妙幢幡

ほうがい とうじょうせんよくいこうずしん ちゃくこうじょう えようらくじこん ざ ひしうざ ふ じこうだい
宝蓋 当淨洗浴以香塗身 着好淨衣 纓絡自嚴 坐卑小座 不自高大
じよきよ じざいりしよほういつ けんげ じ ひよきよきよまん しょうねんちようじゆによ ぜ みようてん おせつ
除去自在離諸放逸 謙下自卑 除去驕慢 正念聽受如是妙典 於說
ほうしやしうせ せんそう ぶ おぐうないぐ ひ おうじさいによけんぞく しようじ あいしん わげん よご
法者生世尊想 復於宮内后妃王子嫫女眷屬 生慈哀心和顏与語
かん い しゆじゆく しようし ぐく しようほつし ぜ おうに じ き かん けい そくしやう ぶりやう かん ぎ け
勸以種種供養之具 供養法師 是王爾時既勸化已 即生無量歡喜快
らく しん ね えつ ちよばい ぶ じ れい ふ しょう ひ けん た さ り やく お せつ ほう しや ばい しよう く ぎ ほう
樂 心懷悅予倍復自勵 不生疲倦多作利益 於說法者倍生恭敬
に じ ぶつ ころ し てん だい おう に じ じん おう おう ちやく ひやく じやう せん けつ し え しゆ じゆ ほう さい さい しよう
爾時仏告四大天王 爾時人王 応着白淨鮮潔之衣 種種纓絡齊整
しょうごん しゆう じ そびやく みみょう じやう がい ふく じき しよう ぎ ふ しつ じやう ぞく くら しゆつ ぶ ころ せつ ほう し じん
莊嚴 執持素白微妙上蓋 服飾容儀不失常則 躬出奉迎說法之人
が い こ ぜ おう によ ぜ ずい こ ぞく ぶ ぶ し ちゆう そく ぜ く しよう ち ぐう ひやく せん の く な ゆ た
何以故 是王如是隨其举足步步之中 即是供養值遇百千億那由他
しよぶつ せ せん ぶ とく ちやう おつ によ ぜ とう ころ じやう じ し なん ぶ お らい せ に しよ ころ ちゆう じやう とう
諸仏世尊 復得超越如是等劫生死之難 復於來世爾所劫中 常得
ふう じゆ てん りん の うい ずい こ ぶ やく とく によ ぜ げん せ くとく ぶ か し ぎ じ ざい し り き じやう とう
封受轉輪王位 隨其步步亦得如是現世功德不可思議自在之力 常
とく さい しょう ぐく みやう しつ ほう にん でん ぐう でん さい ざい じやう しよ ぞう やく じゆ みやう ごん こ べん りやう にん しよ しん じやう
得最勝極妙七宝人天宮殿 在在生處增益壽命 言語弁了人所信用
む しよ い き う だい みやう じやう じやう い にん でん し しよ く ぎ ほう てん じやう にん じゆ じゆ じやう みやう らく とく だい
無所畏忌有大名稱 常為人天之所恭敬 天上人中受上妙樂 得大
せい り き ぐ そく い とく しん し き み みやう たん こん だい い ち じやう ち しよ ぶつ ぐう ぜん ち し き じやう じゆ ぐ そく
勢力具足威德 身色微妙端嚴第一 常值諸仏遇善知識 成就具足
む りやう ふく じゆ によ とう してん の う によ ぜ じん おう けん によ ぜ とう しゆ じゆ ぶりやう くとく じ り やく
無量福聚 汝等四天王 如是人王 見如是等種種無量功德利益
ぜ こ し おう おう とう ころ すい ぶ ころ ほう し に やく い ち ゆ じゆん し ひやく せん ゆ じゆん お せつ ほう し おう じやう
是故此王 應當躬出奉迎法師 若一由旬至百千由旬 於說法師 心生
ぶつ ころ おう ざ ぜ ねん こん に ち し や か に よ ら い じやう ち に ゆう お が ぐう じゆ が く じやう い が せつ ほう
仏想 心作是念 今日釈迦如來正智 入於我宮受我供養為我說法
が もん ぜ ほう そく ふ たい てん お あ の く た ら さん みやく さん ぼ だい い とく ち ひやく せん まんの くとく な
我聞是法 即不退轉於阿耨多羅三藐三菩提 已為得值百千萬億那
ゆ た ぶつ い い く じやう か こ み らい げん ざい しよ ぶつ い とく ひつ き じやう さん まく とう く が こん い
由他仏 已為供養過去未來現在諸仏 已得畢竟三惡道苦 我今已
しゆ ひやく せん ぶりやう てん りん じやう おう しやく ほん し いん い しゆ む へん ぜん こん し ゆう じ い りやう ぶりやう ひやく せん
種百千無量轉輪聖王 釈梵之因 已種無辺善根種子 已令無量百千
まん の く しよ しゆ じやう とう ど お じやう じ い じゆ ぶりやう む へん ふく じゆ ぐ ぐう けん ぞく い とく じやう ころ
萬億諸衆生等度於生死 已集無量無辺福聚 後宮眷屬已得擁護
ぐう たく しよ すい しつ い じやう めつ こく ども む ほう ぞく こく し た ほう おん て き ふ の う しん りやう によ とう
宮宅諸衰悉已消滅 国土無有怨賊棘刺 他方怨敵不能侵陵 汝等
し おう によ ぜ じん おう おう ざ によ ぜ く じやう じやう ほう しやう じやう ちやう じゆ せ みやう じやう だん ぎ ほう
四王 如是人王 心作如是供養正法 清淨聽受是妙經典 及恭敬
く じやう せん じゆ さん だん じ ぜ きやう だん し ぶ し しゆ やく とう え し しよ とく さい じやう くとく し ぶん せ
供養尊重讚歎持是經典四部之衆 亦當廻此所得最勝功德之分 施
よ によ とう ぎ ほう よ けん ぞく しよ てん き じん じゆ じゆ じやう によ ぜ しよ ぜん くとく げん せ じやう とう くとく ぶりやう む へん
与汝等及余眷屬諸天鬼神 聚集如是諸善功德 現世常得無量無辺
ふ か し ぎ じ ざい し り 威徳勢力成就具足 能以正法摧伏諸惡 爾時

四王白仏言 世尊 若未來世有諸人王 作如是等恭敬正法 至心
聽受是妙經典 及恭敬供養尊重讚歎持是經典四部之衆 嚴治舍宅
香汁洒地 專心正念聽說法時 我等四王亦當在中共聽此法 願諸
人王為自利故 以己所得功德少分施与我等 世尊 是諸人王於說
法者所坐之処 為我等故燒種種香供養是經 是妙香氣 於一念頃
即至我等諸天宮殿 其香即時變成香蓋 其香微妙金色晃耀照我等
宮釈宮梵宮 大弁天神 功德天神 堅牢地神 散脂鬼神 最大將
軍 二十八部鬼神大將 摩醯首羅 金剛密跡 摩尼跋陀鬼神大將
鬼子母 与五百兒子周匝圍繞 阿耨達龍王 娑竭羅龍王 如是等
衆 自於宮殿各各得聞是妙香氣 及見香蓋光明普照 是香蓋光明
亦照一切諸天宮殿 仏告四王 是香蓋光明非但至汝四王宮殿 何
以故 是諸人王手擎香炉 供養經時其香遍布 於一念頃遍至三千
大千世界 百億日月 百億大海 百億須彌山 百億大鉄冢山小鉄
冢山及諸山王 百億四天下 百億四天王 百億三十三天 乃至百
億非想非非想天 於此三千大千世界 百億三十三天 一切龍鬼
乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽 宮殿虚空悉滿種種香煙雲蓋
其蓋金光亦照宮殿 如是三千大千世界 所有種種香煙雲蓋 皆是
此經威神力故 是諸人王手擎香炉供養經時 種種香氣 不但遍此
三千大千世界 於一念頃亦遍十方無量無辺恒河沙等百千萬億諸仏
世界 於諸仏上虚空之中 亦成香蓋 金光普照 亦復如是 諸仏
世尊聞是妙香 見是香蓋及金色光 於十方界恒河沙等諸仏世界
作如是等神力變化已 異口同音於說法者稱讚 善哉善哉 大士
汝能広宣流布如是甚深微妙經典 則為成就無量無辺不可思議功德
之聚 若有聞是甚深經典所得功德則為不少 況持誦誦為他衆生開
示分別演說其義 何以故 善男子 此金光明微妙經典 無量無辺

億那由他諸菩薩等 若得聞者 即不退於阿耨多羅三藐三菩提 爾
時十方無量無辺恒河沙等 諸仏世界現在諸仏 異口同声作如是言
善男子 汝於來世必定當得坐於道場菩提樹下 於三界中最尊最勝
出過一切衆生之上 勤修力故受諸苦行 善能莊嚴菩提道場 能壞
三千大千世界外道邪論 摧伏諸魔怨賊異形 覺了諸法第一寂滅清
淨無垢甚深無上菩提之道 善男子 汝已能坐金剛座処 轉於無上
諸仏所讚十二種行甚深法輪 能擊無上最大法鼓 能吹無上極妙法
螺 能豎無上最勝法幢 能然無上極明法炬 能雨無上甘露法雨
能斷無量煩惱怨結 能令無量百千萬億那由他衆 度於無涯可畏大
海 解脱生死無際輪轉 值遇無量百千萬億那由他仏
爾時四天王復白仏言 世尊 是金光明微妙經典 能得未來現在
種種無量功德 是故人王 若得聞是微妙經典 則為已於百千萬億
無量仏所種諸善根 我以敬念是人王故 復見無量福德利故 我等
四王及余眷属無量百千萬億鬼神 於自宮殿見是種種香煙雲蓋瑞応
之時 我當隱蔽不現其身 為聽法故 當至是王所至宮殿講法之処
大梵天王 釈提桓因 大弁天神 功德天神 堅牢地神 散脂鬼神
大將軍等 二十八部鬼神 大將摩醯首羅 金剛密跡 摩尼跋陀鬼
神 大將鬼子母及五百兒子 周匝圍繞 阿耨達龍王 娑竭羅龍王
無量百千萬億那由他鬼神諸天 如是等衆為聽法故 悉自隱蔽不現
其身 至是人王所止宮殿講法之処 世尊 我等四王及余眷属無量
鬼神 悉当同心以是人王為善知識 同共一行善相応行 能為無上
大法施主 以甘露味充足我等 我等应当擁護是王 除其衰患令得
安隱 及其宮宅国土城邑 諸惡災患悉令消滅 世尊 若有人王
於此經典心生捨離不樂聽聞 其心不欲恭敬供養尊重讚歎 若四部
衆有受持誦講説之者 亦復不能恭敬供養尊重讚歎 我等四王及

余眷屬無量鬼神 即便不得聞此正法 背甘露味失大法利 無有勢
力及以威德 減損天衆增長惡趣 世尊 我等四王及無量鬼神捨其
国土 不但我等 亦有無量守護国土諸旧善神皆悉捨去 我等諸王
及諸鬼神既捨離已 其國當有種種災異 一切人民失其善心 唯有
繫縛瞋恚鬪諍 互相破壞多諸疾疫 彗星現怪流星崩落 五星諸宿
違失常度 兩日並現日月薄蝕 白黑惡虹數數出現 大地震動爰大
音声 暴風惡雨無日不有 穀米勇貴饑饉凍餓 多有他方怨賊侵掠
其國 人民多受苦惱 其地無有可愛樂處 世尊 我等四王及諸無
量百千鬼神 并守国土諸旧善神 遠離去時生如是等無量惡事 世
尊 若有人王 欲得自護及王国土多受安樂 欲令国土一切衆生悉
皆成就具足快樂 欲得摧伏一切外敵 欲得擁護一切国土 欲以正
法正治国土 欲得除滅衆生怖畏 世尊 是人王等 應當必定聽是
經典 及恭敬供養誦誦受持是經典者 我等四王及無量鬼神 以是
法食善根因緣 得服甘露無上法味 增長身力心進勇銳增益諸天
何以故 以是人王至心聽受是經典故 如諸梵天說出欲論 釈提桓
因種種善論 五通之人神仙之論 世尊 梵天釈提桓因五神通人
雖有百千億那由他無量勝論 是金光明於中最勝 所以者何 如來
說是金光明經 為衆生故 為令一切閻浮提內諸人王等以正法治
為与一切衆生安樂 為欲愛護一切衆生 欲令衆生無諸苦惱 無有
他方怨賊棘刺 所有諸惡背而不向 欲令国土無有憂惱 以正法教
無有諍訟 是故人王各於国土 忝然法炬熾然正法增益天衆 我等
四王及無量鬼神 閻浮提內諸天善神 以是因緣 得服甘露法味充
足 得大威德進力具足 閻浮提內安隱豐樂 人民熾盛安樂其處
復於來世無量百千不可思議那由他劫 常受微妙第一快樂 復得值
遇無量諸仏種諸善根 然後証成阿耨多羅三藐三菩提 得如是等無

四大天王	常為諸天	諸王法宝	是金光明	異物篋器	能除諸王	能除渴乏	悉能出生	一切珍宝	譬如寶樹	能與一切	復能除滅	所有善事	往法会所	欲令豐盛	若有人王	安隱豐熟	若能流布	諸人王等	所有惡趣	於閻浮提	為諸衆生	是深妙典	汝等四王	為無有上
威神勢力	恭敬供養	是金光明	亦復如是	悉在于手	功德渴乏	是妙經典	諸王功德	是妙經典	在人家中	無量衆生	無量怖畏	摧伏一切	聽受是經	心當至心	欲愛己身	所有衆生	此妙經典	心生慈愍	無量諸苦	能滅三千	安樂利益	能與衆生	應當勤護	十力世尊
之所護持	亦為護世	微妙經典	隨意能與	隨意所用	譬如珍寶	亦復如是	如清冷水	亦復如是	悉能出生	安隱快樂	是諸經王	內外怨賊	是經能作	淨潔洗浴	及其國土	悉受快樂	則令其土	正法治世	閻浮提內	大千世界	故久流布	無量快樂	以是因緣	之所宣說

十方諸仏 常念是經 若有演說
稱讚善哉 亦有百千 無量鬼神
從十方來 擁護是人 若有得聞
是妙經典 心生歡喜 踊躍無量
閻浮提內 無量大衆 皆悉歡喜
集聽是經 聽是經故 具諸威德
增益天衆 精氣身力

爾時四天王聞是偈已 白仏言 世尊 我從昔來未曾得聞如是微妙寂滅之法 我聞是已 心生悲喜涕淚交流 拳身戰動肢節怡解 復得無量不可思議具足妙樂 以天曼陀羅華摩訶曼陀羅華 供養奉散於如來上 作如是等供養仏已 復白仏言 世尊 我等四王 各各自有五百鬼神 常當隨逐是説法者而為守護

金光明經大弁天神品第七

爾時大弁天白仏言 世尊 是説法者 我當益其樂説弁才 令其所説莊嚴次第善得大智 若是經中有失文字句義違錯 我能令是説法比丘次第還得 能与總持令不忘失 若有衆生於百千仏所種諸善根 是説法者為是等故 於閻浮提廣宣流布是妙經典令不斷絶 復令無量無辺衆生得聞是經 當令是等悉得猛利不可思議大智慧聚不可称量福德之報 善解無量種種方便 善能弁暢一切諸論 善知世間種種技術 能出生死得不退転 必定疾得阿耨多羅三藐三菩提

金光明經功德天品第八

爾時功德天白仏言 世尊 是説法者 我當隨其所須之物 衣服飲食臥具醫藥及余資産 供給是人無所乏少 令心安住晝夜歡樂正念思惟是經章句分別深義 若有衆生於百千仏所種諸善根 是説法者為是等故 於閻浮提廣宣流布是妙經典令不斷絶 是諸衆生聽

是經已 於未來世無量百千那由他劫 常在天上人中受樂 值遇諸
仏 速成阿耨多羅三藐三菩提 三惡道苦悉畢無余 世尊 我已於
過去宝華功德海瑠璃金山照明如來應供正遍知明行足善逝世間解無
上士調御丈夫天人師仏世尊所種諸善根 是故我今隨所念方 隨所
視方 隨所至方 能令無量百千衆生受諸快樂 若衣服飲食資生之
具 金銀七宝 眞珠瑠璃珊瑚琥珀璧玉珂貝 悉無所乏 若有人能
称金光明微妙經典 為我供養諸仏世尊 三称我名燒香供養 供養
仏已別以香華種種美味 供施於我洒散諸方 当知是人即能聚集資
財宝物 以是因縁增長地味 地神諸天悉皆歡喜 所種穀米牙荳枝
葉果実滋茂 樹神歡喜出生無量種種諸物 我時慈念諸衆生故 多
与資生所須之物 世尊 於此北方 毘沙門天王有城名曰阿尼曼陀
其城有園名功德華光 於是園中有最勝園 名曰金幢七宝極妙 此
即是我常止住処 若有欲得財宝增長 是人当於自所住処 応淨掃
洒洗浴其身 着鮮白衣妙香塗身 為我至心三称彼仏宝華瑠璃世尊
名号 禮拜供養燒香散華 亦当三称金光明經至誠發願 別以香華
種種美味 供施於我洒諸方 爾時当説如是章句
波利富樓那遮利 三曼陀達舍尼羅佉 摩訶毘呵羅伽帝 三曼陀
毘陀那伽帝 摩訶迦梨波帝 波婆禰 薩婆哆訶 三曼陀 修鉢梨
富隸 阿夜那達摩帝 摩訶毘鼓畢帝 摩訶彌勒簸僧祇帝 醯帝篔
三博祇憐帝 三曼陀阿咄 阿菟婆羅尼
是灌頂章句 必定吉祥眞実不虚 等行衆生及中善根 応当受持
誦誦通利 七日七夜受持八戒 朝暮淨心 香華供養十方諸仏 常
為己身及諸衆生 廻向具足阿耨多羅三藐三菩提 作是誓願 令我
所求皆得吉祥 自於所居房舍屋宅淨潔掃除 若自住処若阿蘭若処
以香泥塗地燒微妙香敷淨好座 以種種華香布散其地以待於我 我

於爾時如一念頃 入其室宅即坐其座 從此日夜令此所居若村邑若
僧坊若露地無所乏少 若錢若金銀若珍宝若牛羊若穀米 一切所須
即得具足悉受快樂 若能以己所作善根最勝之分廻与我者 我当終
身不遠其人 於所住处至心護念 隨其所求令得成就 应当至心礼
如是等諸仏世尊 其名曰宝勝如来 無垢熾宝光明王相如来 金焰
光明如来 金百光明照蔵如来 金山宝蓋如来 金華焰光相如来
大炬如来 宝相如来 亦応敬礼 信相菩薩 金光明菩薩 金蔵菩
薩 常悲菩薩 法上菩薩亦応敬礼 東方阿閼如来 南方宝相如来
西方無量寿仏 北方微妙声仏
金光明經堅牢地神品第九

爾時地神堅牢白仏言 世尊 是金光明微妙經典 若現在世若未

來世 在在处处 若城邑聚落 若山沢空処 若王宮宅 世尊 隨

是經典所流布処 是地分中敷獅子座 令説法者坐其座上 広演宣

説是妙經典 我当在中常作宿衛 隱蔽其身於法座下頂戴其足我聞

法已 得服甘露無上法味增益身力而此大地深十六万八千由旬 從

金剛際至海地上 悉得衆味增長具足 豊壤肥濃過於今日 以是之

故 閻浮提内菓草樹木 根茎枝葉華果滋茂 美色香味皆悉具足

衆生食已增長寿命色力弁安 六情諸根具足通利 威徳顔貌端嚴殊

特 成就如是種種等已 所作事業多得成弁 有大勢力精勤勇猛

是故世尊 閻浮提内安隱豊樂人民熾盛 一切衆生多受快樂 応心

適意隨其所樂 是諸衆生得是威徳大勢力已 能供養是金光明經

及恭敬供養持是經者四部之衆 我於爾時当往其所為諸衆生受快樂

故 請説法者広宣布如是妙典何以故 世尊 是金光明若広説時

我及眷属所得功德倍過於常 增長身力心進勇銳 世尊 我服甘露

無上味已 閻浮提地縦広七千由旬豊壤倍常 世尊 如是大地衆生

所依 悉能增長一切所須之物 增長一切所須物已 令諸衆生隨意
所用受於快樂 種種飲食衣服臥具 宮殿屋宅樹木林苑 河池井泉
如是等物依因於地悉皆具足 是故世尊 是諸衆生為知我恩願作是
念 我當必定聽受是經 供養恭敬尊重讚歎 作是念已 即從住處
若城邑聚落舍宅空地 往法会所聽受是經 既聽受已還其所止各心
相慶作如是言 我等今者聞此甚深無上妙法 已為撰取不可思議功
德之聚 值遇無量無辺諸仏 三惡道報已得解脫 於未來世常生天
上人中受樂 是諸衆生各於住處 若為他人演說是經 若説一喻一
品一縁 若復称歎一仏一菩薩一四句偈乃至一句 及称是經首題名
字 世尊 隨是衆生所住之處 其地具足豐壤肥濃過於余地 凡是
因地所生之物 悉得增長滋茂廣大 令諸衆生受於快樂 多饒財宝
好行惠施 心常堅固深信三宝
爾時仏告地神堅牢 若有衆生 乃至聞是金光明經一句之義 人
中命終隨意往生三十三天 地神 若有衆生 為欲供養是經典故莊
嚴屋宅 乃至張懸一幡一蓋及以一衣 欲界六天已有自然七宝宮殿
是人命終即往生彼 地神 於諸七宝宮殿之中 各各自然有七天女
共相娛樂日夜常受不可思議微妙快樂 爾時地神白仏言 世尊 以
是因縁 説法比丘坐法座時 我常昼夜衛護不離 隱蔽其形在法座
下頂戴其足 世尊 若有衆生於百千仏所種諸善根 是説法者為是
等故 於閻浮提広宣流布是妙經典令不斷絶 是諸衆生聽是經已
未來之世無量百千那由他劫 於天上人中常受快樂 值遇諸仏疾成
阿耨多羅三藐三菩提 三惡道苦悉断無余

金光明經卷第二

金光明經卷第三 北涼三蔵法師曇無讖訳

金光明經散脂鬼神品第十

爾時散脂鬼神大將 及二十八部諸鬼神等 即從座起 偏袒右肩
右膝着地 白仏言 世尊 是金光明微妙經典 若現在世及未來世
我在処処若城邑聚落 若山沢空処若王宮宅 隨是經典所流布処
我当与此二十八部大鬼神等 往至彼所隱蔽其形 隨逐擁護是説法
者 消滅諸惡令得安隱 及聽法衆若男若女童男童女 於是經中乃
至得聞一如來名一菩薩名及此經典首題名字 受持誦誦 我当隨侍
宿衛擁護悉滅其惡令得安隱 及国邑城郭 若王宮殿 舍宅空処
皆亦如是 世尊 何因緣故 我名散脂鬼神大將 唯然世尊 自当
証知 世尊 我知一切法一切縁法 了一切法 知法分齊 如法安
住一切法 如性於一切法含受一切法 世尊 我現見不可思議智光
不可思議智炬 不可思議智行 不可思議智聚 不可思議智境 世
尊 我於諸法正解正觀 得正分別 正解於縁 正能覺了 世尊
以是義故 名散脂大將 世尊 我散脂大將 令説法者莊嚴言辞弁
不断絶 衆味精气從毛孔入 充益身心進勇銳 成就不可思議智
慧入正憶念 如是等事悉令具足心無疲厭 身受諸樂心得歡喜 以
是意故 能為衆生広説是經 若有衆生 於百千仏所種諸善根 説
法之人 為是衆生於閻浮提内 広宣流布是妙經典令不断絶 無量
衆生聞是經已 当得不可思議智聚 撰取不可思議功德之聚 於未
來世無量百千劫 人天之中常受快樂 於未來世值遇諸仏 疾得証
成阿耨多羅三藐三菩提 一切衆 苦三惡趣分永滅無余 南無宝華
功德海瑠璃金山光照如來応供正遍知 南無無量百千億那由他莊嚴
其身釈迦如來応供正遍知 熾然如是微妙法炬 南無第一威徳成就
衆事大功徳天 南無不可思量智慧功德成就大弁天

金光明經正論品第十一

爾時仏告地神堅牢 過去有王名力尊相其王有子名曰信相 不久

とうじゆかんじょうし いとうりょうこくど 爾時父王告其大子信相 世有正論 善治
当受灌頂之位統領国土 爾時父王告其大子信相 世有正論 善治
こくど 我於昔時曾為大子 不久亦当紹父王位 爾時父王持是正論
国土 我於昔時曾為大子 不久亦当紹父王位 爾時父王持是正論
やくい がせつ 我以是論於二万歳善治国土 未曾一念以非法行 於自
亦為我說 我以是論於二万歳善治国土 未曾一念以非法行 於自
けんぞくじょう おあいじやく がとうみやうい せしやうろん 地神 爾時力尊相王為信相大子
眷属情無愛着何等名為治世正論 地神 爾時力尊相王為信相大子
せつぜ げこん 説是偈言

がこんとうせつ 諸王正論 為利衆生

だんしよぎ わく 一切人王 諸天天王

おうとうかんぎ 合掌諦聽 諸王和合

じゅうこんごうせん 護世四鎮 起問梵王

だいし ぼんそん 天中自在 能除疑惑

とうい がだん 云何是人 得名為天

うん がにんおう 復名天子 生在人中

しよおうぐうでん 正法治世 而名為天

ごせ しおう 問是事已 時梵尊師

そくせつげこん 汝今雖以 此義問我

がようとうい 一切衆生 敷揚宣暢

だいいちしやうろん 因集業故 生於人中

おうりょうこくど 故称人王 処在胎中

しよてんしゆご 或先守護 然後入胎

すいざいにんじゅう 生為人王 以天護故

ふしやうてんじ 三十三天 各以己徳

ぶんよ ぜにん 故称天子 神力所加

ことくじざい 遠離惡法 遮令不起

あんじゅうぜんぼう 修令増広 能令衆生

たしやうてんじょう 半名人王 亦名執樂

人民飢餓	二日並現	孤迸流離	生大愁惱	諸天即便	姦詐鬪訟	以天瞋故	与惡為伴	是諸天王	悉懷愁惱	由王捨正	日月無光	暴風卒起	其国殄滅	如法治世	錢財珍寶	他方怨敵	縱惡不治	三十三天	增長惡趣	不治其罪	諸天所護	善惡諸業	教誨修善	羅剎魁膾
多諸疾疫	他方惡賊	身亦滅亡	兄弟姊妹	捨離是王	疾疫惡病	不久国敗	以造惡故	各相謂言	由王暴虐	使国饑饉	五穀果實	屢降惡雨	譬如狂象	不行是事	諸惡盜賊	競來侵掠	壞国正法	各生瞋恨	故使國中	不以正教	若有惡事	現在未來	示現果報	能遮諸惡
所重大臣	侵掠其土	流星數墮	眷屬妻子	令其国敗	集其国土	非法兵仗	速得天瞋	是王行惡	不修善事	天於宮殿	咸不滋茂	惡星數出	踏蓮華池	若行是者	共來劫奪	自家所有	姦詐熾盛	由其国王	多諸姦鬪	捨遠善法	縱而不問	現受果報	諸天所護	亦名父母

愛着眷属 あいじやくけんぞく	起如是等 きによせとう	損人天道 そんにんでんどう	若有人王 にやくうにんおう	逼切其身 ひつせつごしん	懶惰懈怠 らんだけたい	不知厭足 ふちえんそく	顏貌醜陋 げんみょうしゆうる	精妙上味 しやうみやうじやうみ	悉皆枯悴 しつかいこすい	隨時增長 ずいじぞうちやう	甘美盛果 かんみじやうか	滋味衰減 じみすいげん	故天降雹 こてんこうばく	及以地肥 ぎやういじひ	破壞甘露 はえかんろ	三異並起 さんいびやうき	見修善者 けんしゆぜんしや	日日衰滅 にちにちすいめつ	如人行惡 によせぎやうあく	所任大臣 しよにんだいじん	諸惡疾疫 しよあくしつやく	刀兵而死 とうひやうにし	諸家財產 しよけざいざん	捨離薨亡 しゃりこうもう
縱之造惡 じゆうしぞうあく	無量惡事 むりやうあくじ	於三有中 おさんうちゆう	行於非法 ぎやうおひほう	惡星變動 あくしやうへんどう	充滿其國 じゆうまんこく	力精勇猛 りきしやうゆうみよう	氣力衰微 きりきすいみ	漸漸損減 ぜんぜんそんげん	無可樂者 むからくしや	本所遊戲 ほんしよけ	日日損減 にちにちそんげん	多病衆生 たびやうしゆじやう	飢餓疫病 けがやくびやう	恭敬弊惡 くぎやうへいあく	無上正法 むじやうしやうほう	星宿失度 しやうしゆくしつど	心不顧錄 しんふころく	於行惡者 おぎやうあくしや	偏受恩遇 へんじゆおんぐう	及諸群僚 ぎつしよぐんりやう	流遍其國 るへんこく	五星諸宿 ごしやうしよしゆく	國土所有 こくどしやう	象馬車乘 ぞうめしやじやう
捨而不治 しやにふじ	皆由人王 かいゆにんおう	多受苦惱 たじゆくのおう	增長惡伴 ぞうちやうあくばん	羅刹亂行 らせつらんぎやう	多有病苦 たうびやうく	悉滅無有 しつめつむう	凡所食噉 ぼんしよじきだん	食無肥膚 じきむひふ	衆生所食 しゆじやうしよじき	可愛之処 かあいししよ	苦澁惡味 くじゆうあくみ	穀米果實 こくまいかじつ	充滿其國 じゆうまんこく	毀諸善人 きしよぜんにん	衆生等類 しゆじやうどうるい	降暴風雨 かうぼうふうう	故使世間 こしせけん	而生恭敬 にしやうくぎやう	修善法者 しゆぜんほうしや	專行非法 せんぎやうひほう	諸受寵祿 しよじゆちやうろく	違失常度 いしつじやうど	互相劫奪 ごそうこうだつ	一念喪滅 いちねんそうめつ

一切諸天 いっさいしよてん	具足充滿 ぐそくじゆうまん	常以善心 じょういぜんしん	流布三界 りゅうふさんがい	視親非親 ししんひしん	不愛眷屬 ふあいけんぞく	以善化國 いぜんけこく	彌滿其國 みまんこく	怨恨諸天 おんごんしよてん	壞於國土 えおこくど	惡因多姦 あくいんたかん	惡不心縱 あくふおうじゆう	為命及國 いみよぎゆうこく	修正治國 しゆしやうじこく	諸天護持 しよてんごじ	善不善業 ぜんふぜんごう	現世正治 げんせしやうじ	護持是王 ごじせおう	不応縱捨 ふおうじゆうしゃ	則非孝子 そくひこうし	違逆諸天 いぎやくしよてん	皆生焦熱 かいしやうしやうねつ	行不善者 ぎやうふぜんしや	終不為是 じゆうふいぜ	若為諸天 にやくいしよてん
愛護人王 あいごにんおう	是故正治 ぜこしやうじ	仰瞻國王 ごうせんこくおう	正法治國 しやうほうじこく	和合為一 わごういち	於親非親 おしんひしん	不順非法 ふじゆんひほう	是故心隨 ぜこおうずい	故天生惱 こてんしやうのう	譬如大象 ひによだいぞう	然後傾敗 ねんごきやうはい	所有余事 しやうよじ	修行正法 しゆぎやうしやうほう	有壞國者 うえこくしや	隣王佐助 りんおうさじよ	能示因果 のうじいんが	得增王位 とくぞうおうい	以滅惡法 いめつあくほう	當正治罪 とうしやうじざい	起諸姦惡 きしよかんあく	及父母勅 ぎやうふもちよく	由王縱惡 ゆおうじゆうあく	墮在三塗 だざいさんず	有行善者 うぎやうぜんしや	所護生者 しよごしやうしや
猶如父母 ゆうによぶも	名為人王 みやういにんおう	能令天衆 のうりやうてんしゆ	人多行善 にんたぎやうぜん	正行名稱 しやうぎやうみやうしやう	心常平等 しんじやうびやうどう	寧捨身命 にやうしゃしんみやう	正法治世 しやうほうじせ	起諸惡事 きしよあくじ	壞蓮華池 えれんげち	若起多姦 にやくきたかん	不能壞國 ふのうえこく	不応行惡 ふおうぎやうあく	應當正教 おうとうしやうぎやう	為自為他 いじいた	故得為王 こどくいおう	応各為説 おうかくいせつ	修習善故 しゆじゆうぜんこ	是故諸天 ぜこしよてん	壞國土者 えこくどしや	不能正治 ふのうしやうじ	捨而不治 しゃにふじ	三十三天 さんじゆうさんてん	得生天中 とくしやうてんちゆう	如是人王 によぜにんおう

擁護其子 故令日月 五星諸宿
 隨其分齊 不失常度 風雨隨時
 無諸災禍 令國豐實 安樂熾盛
 增益人民 諸天之衆 以是因緣
 諸人王等 寧捨身命 不応為惡
 不応捨離 正法珍寶 由正法寶
 世人受樂 常當親近 修正法者
 聚集功德 莊嚴其身 於自眷屬
 常知止足 當遠惡人 修治正法
 安止衆生 於諸善法 教勅防護
 令離不善 是故国土 安隱豐樂
 是王亦得 威德具足 隨諸人民
 所行惡法 応当調伏 如法教詔
 是王當得 好名善譽 善能撰護
 安樂衆生

金光明經善集品第十二

爾時如來復為地神 説往昔因縁

而作偈言

我昔曾為 轉輪聖王 捨四大地
 及以大海 又於是時 以四天下
 滿中珍寶 奉上諸仏 凡所布施
 皆捨所重 不見可愛 而不捨者
 於過去世 無數劫中 求正法故
 常捨身命 又過去世 不可議劫
 有仏世尊 名曰寶勝 其仏世尊
 般涅槃後 時有聖王 名曰善集

於淨微妙	世界諸天	許為宣說	諸經之王	惟願為我	作如是言	時善集王	諸仏所行	即是所問	威德熾然	時此宝冥	即將是王	誦誦如是	在一窟中	成就一切	是大衆中	供養恭敬	心喜遍身	是轉輪王	微妙經典	善能宣暢	聞仏功德	於其城中	尽大海際	於四天下
鮮絜之処	知当說法	是金光明	時宝冥尊	敷演宣說	面如滿月	即尋礼敬	名金光明	宝冥比丘	即示王言	故在窟中	至其所止	金光明經	安坐不動	諸功德不	頗有比丘	諸大聖衆	即出宮殿	夢是事已	明如日中	如來正法	及見比丘	止住治化	其王有城	而得自在
種種珍宝	悉生歡喜	三千大千	即受王請	是金光明	威德熾然	宝冥比丘	諸經之王	能持甚深	是窟中者	形貌殊特	到宝冥所	時有比丘	思惟正念	爾時宝冥	名曰宝冥	問諸大徳	至僧坊所	即尋覺寤	悉能遍照	所謂金光	名曰宝冥	夜睡夢中	名水音尊	治正之勢

讚言善哉 さんごんぜんざい	於比丘前 おびくぜん	是妙經典 ぜみょうきょうでん	時說法者 じせつぽうしゃ	所得王領 しよとくおうりやう	於諸衆生 おしよしゆじやう	不可思議 ふかしぎ	尋上高座 じんじやうこうざ	不鼓自鳴 ふくじみやう	無量百千 むりやうひやくせん	大曼陀羅 だいまんだら	一切天王 いっさいてんのう	至法座所 しほうざしよ	是時宝冥 ぜじほうみやう	以娑羅華 いしやらけ	是時宝冥 ぜじほうみやう	無量諸天 むりやうしよてん	不可思議 ふかしぎ	曼陀羅華 まんだらけ	摩睺羅伽 まごらが	大法高座 だいほうこうざ	種種微妙 しゆじゆみみょう	自敷法座 じふほうざ	散諸好華 さんしよこうけ	廁填其地 してんごじ
其心悲悼 ごしんひどう	合掌而立 がっしやうにりゆう	是時大王 ぜじだいおう	即尋為王 そくじんいおう	尽一日月 じんいちにちがつ	興大悲心 こうだいひしん	無量千億 むりやうせんのかく	結跏趺坐 けつかふざ	宝冥比丘 ほうみやうびく	種種妓樂 しゆじゆぎがく	摩訶曼殊 まかまんじゆ	及諸天人 ぎつしよてんにん	合掌敬礼 がっしやうぎやうらい	淨洗身体 じやうせんしんたい	供養奉散 くやうぶさん	尋從窟出 じんじゆうくつすい	一時俱來 いちじくらい	百千萬億 ひやくせんまんのく	遍散法座 へんさんほうざ	緊那羅等 きんならとう	一切諸天 いっさいしよてん	殊特抹香 しゆとくまつかう	懸繪幡蓋 けんかいばんがい	遍滿其処 へんまんごしよ	上妙香水 じやうみやうかうずい
涕淚交流 ていらいかうりう	聞於正法 もんおしょうほう	為聞法故 いもんほうこ	敷揚宣說 ふやうせんぜつ	所照之処 しよしやうしよ	及善集王 ぎやうぜんじゆうおう	諸仏世尊 しよぶつせそん	即念十方 そくねんじつぽう	能說法者 のうせつぽうしや	於虛空中 おこくうちゆう	衆妙宝華 しゆみやうほうけ	雨曼陀羅 うまんだら	是法高座 ぜほうこうざ	着淨妙衣 ちやくじやうみやうえ	宝冥比丘 ほうみやうびく	諸天即時 しよてんそくじ	集說法所 じゆうせつぽうしよ	那由他等 なゆたとう	滿其処所 まんごしよしよ	即雨天上 そくうてんじやう	龍及鬼神 りゆうぎゆうきじん	悉以奉散 しついでんぶん	宝飾交絡 ほうじききやうらく	王於是時 おうおぜじ	持用洒之 じやうしやし

復得值遇	劫中常作	常得王領	轉輪聖王	過去九十	之所樂見	常為無量	業因緣故	聞是經已	珍寶布施	我於爾時	聽受法者	於今現在	供養三宝	於寶勝仏	即持如是	悉皆充滿	天冠耳璫	即於爾時	悉令無量	瑰琦七宝	此閻浮提	為諸衆生	此經典故	尋復踊悅
十力世尊	積提桓因	諸小国土	亦於無量	九億千劫	既得見已	百千萬億	身得金色	一称善哉	得聞如是	捨此大地	今則我身	阿闍仏是	爾時為王	遺法之中	滿四天下	遍四天下	種種瓔珞	尋雨七宝	一切衆生	及妙瓔珞	悉雨無量	發大誓願	爾時即提	心意熙怡
其數無量	及淨梵王	不可思議	百千劫中	常得作於	無有厭足	衆生等類	百福莊嚴	以此善根	金光明經	滿四天下	積迦文是	時善集王	說法比丘	以用布施	無量七宝	時王善集	甘饌宝座	及諸宝飾	皆受快樂	以是因縁	種種珍異	願於今日	如意珠王	為欲供養

不可稱計 所得功德 無量無辺
皆由聞經 及稱善哉 如我所願
成就菩提 正法之身 我今已得

金光明經鬼神品第十三

佛告功德天 若有善男子善女人 欲以不可思議妙供養具供養過

去未來現在諸佛世尊 及欲得知三世諸佛甚深行處 是人应当必定

至心 隨有是經流布之處 若城邑村落舍宅空處 正念不乱 至心

聽是微妙經典 爾時世尊欲重宣此義 而說偈言

若欲供養 一切諸佛 欲知三世

諸佛行處 应当往彼 城邑聚落

有是經處 至心聽受 是妙經典

不可思議 功德大海 無量無辺

能令一切 衆生解脫 度無量苦

諸有大海 是經甚深 初中後善

不可得說 譬喻為比 假使恒沙

大地微塵 大海諸水 一切諸山

如是等物 不得為喻 若入是經

即入法性 如深法性 安住其中

即於是典 金光明中 而得見我

釈迦牟尼 不可思議 阿僧祇劫

生天人中 常受快樂 以能信解

聽是經故 如是無量 不可思議

功德福聚 悉已得之 隨所至處

若百由旬 滿中盛火 心從中過

若至聚落 阿蘭若處 到法會所

法塔之想 ほうとうしそ	常当供養 じょうとうくよう	及功德天 ぎあうくどくてん	阿修羅王 あしゅらおう	及緊那羅 ぎんなんら	鬼神諸王 きじんしよおう	三十三天 さんじゅうさんてん	人陣得勝 にゅうじんとくしやう	一切怨敵 いっさいおんてき	名聞流布 みやうもんぷ	皆悉寂滅 かいしつじやくめつ	惡夢惱心 あくむのうしん	能令退散 のうりようたいさん	有大名稱 うだいまいしょう	之所讚歎 ししよさんだん	成就如是 じやうじゆによぜ	種種事已 しゆじゆじい	彌勒大士 みろくだいじ	菩薩色像 ぼさつしきざう	故有說者 こいうせつしや	若下法座 にやくげほうざ	說是經典 せつぜきやうでん	消滅無余 しやうめつむよ	五星諸宿 ごしやうしよしゆく	至心聽受 ししんちやうじゆ
衆生見者 しゆじやうけんしや	是聽法者 ぜちやうほうしや	如是上首 によぜじやうしゆ	迦樓羅王 かろうらおう	阿耨達龍 あのくだつりゆう	散脂大將 さんしだいしやう	護世四王 ごせしおう	心常歡喜 しんじやうかんぎ	遠離諸惡 おんりしよあく	遍閻浮提 へんえんぷだい	若人軍陣 にやくにゅうぐんじん	無量惡業 むりやうあくごう	勇捍多力 ゆうがんたりき	能却怨家 のうきやくおんけ	威德相貌 いとくそうみやう	諸功德已 しよくどくじい	尋復滅尽 じんぶめつじん	及諸形像 ぎつしよぎやうざう	普賢菩薩 ふげんぼさつ	或仏世尊 わくぶつせそん	爾時大衆 にじだいしゆ	書寫誦誦 しよしゃどくじゆ	於說法処 おせつほつしよ	變異災禍 へんいさいか	聽是經故 ちやうぜきやうこ
恭敬歡喜 くぎやうかんぎ	生不思議 しやうふしぎ	諸天神等 しよてんじんとう	大弁天神 だいべんてんじん	袈裟羅王 さかつらおう	禪那英鬼 ぜんなやうき	金剛密跡 こんごうみつやく	大梵天王 だいほんてんのう	修習諸善 しゆじゆしよぜん	亦能摧伏 やくのうさいぶく	常能勝他 じやうのうしやうた	如是惡事 によぜあくじ	能破強敵 のうはごうてき	他方盜賊 たほうとうぞく	無量無辺 むりやうむへん	而為諸仏 にいしよぶつ	如前無異 によぜんむい	見如是等 けんによぜとう	文殊師利 もんじゆしり	或見仏像 わくけんぶつざう	猶見坐処 ゆうけんざしよ	是說法者 ぜせつほうしや	蓮華座上 れんげざじやう	一切惡事 いっさいあくじ	惡夢蠱道 あくむこどう

一切皆是	大鬼神王	擁護是等	散脂為首	摩醯首羅	昼夜不離	火神等神	及毘紐天	閻摩羅王	永離諸苦	昼夜精進	護世四王	諸天神王	是金光明	以是善根	悉已供養	由以淨心	深法寶器	如是大悲	思議正信	故嚴出往	成上善根	若能來至	令是衆生	諸天王等
大菩薩等	及其眷屬	令不怖畏	百千鬼神	二十八部	大力鬼王	大力勇猛	大弁天神	風水諸神	積提桓因	擁護四方	無量鬼神	之所愛護	如是衆生	無量因緣	過去無量	聽是經典	能入甚深	利益衆生	供養恭敬	法會之処	若有聽是	是法會所	無量威徳	亦各思惟
亦悉擁護	五百徒党	金剛密跡	神足大力	諸鬼神等	那羅延等	常護世間	及自在天	違馱天神	及日月天	令無災禍	及諸力士	大弁功德	常為無量	應當聽受	百千諸仏	如是之人	無上法性	即是無量	無上法塔	心生不可	甚深經典	如是之人	皆悉成就	而相謂言

阿修羅王	佉羅鷲陀	及以茂脂	波利羅睺	常來擁護	有如是等	伊羅鉢王	阿耨達龍	常勤擁護	如是等神	阿伽跋羅	醯摩跋陀	劍摩舍帝	勤那翅奢	摩竭婆羅	有大威德	半祇鬼神	大飲食神	摩尼乾陀	及乾闥婆	聽是經者	各有五百	賓頭盧伽	富那跋陀	聽是經者
有大神力	及以捷陀	睽摩利子	阿修羅王	聽是經者	百千龍王	難陀龍王	娑伽羅王	聽受如是	皆有無量	支羅摩伽	薩多琦梨	復有天神	摩訶婆那	針髮鬼神	婆那利神	及半支羅	摩訶伽咤	及尼捷陀	那羅羅闍	質多斯那	眷屬鬼神	黃頭大神	及金毘羅	摩尼跋陀
常來擁護	是等皆是	波訶梨子	毘摩質多	晝夜不離	以大神力	跋難陀王	目真隣王	微妙經者	神足大力	央掘摩羅	多醯波醯	奢羅蜜帝	及軍陀遮	繡利蜜多	曇摩跋羅	車鉢羅婆	金色髮神	主雨大神	祁那娑婆	阿修羅王	亦常擁護	一一諸神	阿羅婆帝	大鬼神王

香氣醜醜	皆悉滋茂	是經力故	所有諸神	充益身力	厚百由旬	是經力故	無不遍有	厚十六萬	能變其味	地神大力	寤則憂悴	皆悉能滅	莊嚴倍常	於諸衆生	悉來擁護	果實大神	各与眷属	大弁天等	常勤擁護	噉人精气	利大鬼神	聽是經者	鬼子母等	聽是經者
充溢弥滿	園苑叢林	諸天歡喜	心生歡喜	歡喜快樂	亦令諸天	能令地味	悉令湧出	八千由旬	如是大地	勢分甚深	如是惡事	無有遺余	五星諸宿	增命色力	愛樂親近	如是諸神	地神堅牢	無量天女	十方世界	如是等神	女等鳩羅	若睡若寤	及五百神	晝夜不離
百草樹木	其華開敷	百穀果實	受樂無量	閻浮提内	大得精氣	悉出地上	潤益衆生	其中氣味	至金剛際	是經力故	皆悉滅尽	夜臥惡夢	變異災怪	功德威貌	是經典者	心生歡喜	種植園林	功德天等	受持經者	皆有大力	鳩羅檀提	旃陀旃陀	常來擁護	訶利帝南

金光明經授記品第十四

藐三菩提記 爾時如來 是時即有十千天子 威德熾王而為上首 俱從忉利來 將欲為是信相菩薩及其二子銀相銀光 授阿耨多羅三

生長端直 其體柔軟 無有斜戾 閻浮提內 所有龍女 其數無量 不可思議 心生歡喜 踊躍無量 在在處處 莊嚴華池 於其池中 生種種華 優鉢羅華 波頭摩華 拘物頭華 分陀利華 於自宮殿 除諸雲霧 令虛空中 無有塵翳 諸方清徹 淨潔明了 日王赫焰 放千光明 歡喜踊躍 照諸閻蔽 閻浮檀金 以為宮殿 止住其中 威德無量 日之天子 及以月天 聞是經故 精氣充實 是日天子 出閻浮提 心生歡喜 放於無量 光明明網 遍照諸方 即於出時 放大光網 開敷種種 諸池蓮華 閻浮提內 無量果實 隨時成熟 飽諸衆生 是時日月 所照殊勝 星宿正行 不失度数 風雨隨時 豐實熾盛 多饒財寶 無所乏少 是金光明 微妙經典 隨所流布 誦誦之処 其國土境 即得增益 如上所說 無量功德

至仏所 頂礼仏足却坐一面 爾時仏告信相菩薩 汝於來世 過無
量無辺百千万億不可称計那由他劫 金照世界 当成阿耨多羅三藐
三菩提 号金宝蓋山王如来応供正遍知明行足善逝世間解無上士調
御丈夫天人師仏世尊 乃至是仏般涅槃後 正法像法皆滅尽已 長
子銀相 当於是界次補仏処 世界爾時転名浄幢 仏名閻浮檀金幢
光照明如来応供正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏
世尊 乃至是仏般涅槃後 正法像法悉滅尽已 次子銀光 復於是
後次補仏処 世界名字如本不異 仏号曰金光照如来応供正遍知明
行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師仏世尊 是十千天子 聞三
大士得受記 復聞如是金光明経 聞已歡喜生殷重心 心無垢累
如浄瑠璃 清浄無礙猶如虚空 爾時如来 知是十千天子善根成熟
即便与授菩提道記 汝等天子 於当來世 過阿僧祇百千万億那由
他劫 於是世界 当成阿耨多羅三藐三菩提 同共一家一姓一名
号曰青目優鉢羅華香山如来応供正遍知明行足善逝世間解無上士調
御丈夫天人師仏世尊 如是次第出現於世凡一万仏 爾時道場菩提
樹神 名等増益 白仏言 世尊 是十千天子 於忉利宮為聴法故
故來集此 云何如来便与授記 世尊 我未曾聞 是諸天子修行具
足六波羅蜜 亦未曾聞捨於手足頭目髓腦 所愛妻子財宝穀帛 金
銀瑠璃碑磔瑪瑙 真珠珊瑚珂貝璧玉 甘饌飲食衣服臥具 病瘦医
藥象馬車乘 殿堂屋宅園林泉池奴婢僕使 如余無量百千菩薩 以
種種資生供養之具 恭敬供養過去無量百千万億那由他等諸仏世尊
如是菩薩於未來世 亦捨無量所重之物頭目髓腦所愛妻子財宝穀帛
乃至僕使 次第修行 成就具足六波羅蜜 成就是已備修苦行 動
経無量無辺劫数 然後方得受菩提記 世尊 是天子等何因何縁
修行何等勝妙善根 從彼天來暫得聞法便得受記 惟願世尊 為我

解説断我疑網 爾時仏告樹神善女人 皆有因縁 有妙善根 以隨
相修 何以故 以是天子於所住処捨五欲樂 故來聽是金光明經
既聞法已 於是經中淨心殷重如説修行 復得聞此三大菩薩受於記
翦 亦以過去本昔發心誓願因縁 是故我今皆与受記 於未來世
当成阿耨多羅三藐三菩提

金光明經除病品第十五

仏告道場菩提樹神 善女人 諦聽諦聽 善持憶念 我當為汝演

説往昔誓願因縁 過去無量不可思議阿僧祇劫 爾時有仏出現於世

名曰宝勝如來応供正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師

仏世尊 善女人 爾時是仏般涅槃後正法滅已 於像法中有王名曰

天自在光王 修行正法如法治世 人民和順孝養父母 是王國中有

一長者名曰持水 善知醫方救諸病苦 方便巧知四大増損 善女人

爾時持水長者家中 後生一子名曰流水 体貌殊勝端正第一 形色

微妙威徳具足 受性聰敏善解諸論 種種技芸書疏算計無不通達

是時國內天降疫病 有無量百千諸衆生等 皆無免者 為諸苦惱之

所逼切 善女人 爾時流水長者子 見是無量百千衆生受諸苦惱故

為是衆生大悲心 作是思惟 如是無量百千衆生受諸苦惱 我父

長者 雖善醫方能救諸苦方便巧知四大増損 年已衰邁老耄枯悴

皮緩面皺羸瘦顛掉 行來往反要因几杖 困頓疲乏不能至彼城邑聚

落 而是無量百千衆生 復遇重病無能救者 我今當至大醫父所諮

問治病醫方秘法 諮稟知已 當至城邑聚落村舍治諸衆生種種重病

悉令得脱無量諸苦 時長者子思惟是已 即至父所頭面着地 為父

作礼叉手却住 以四大増損而問於父 即説偈言

云何当知 四大諸根 衰損代謝

而得諸病 云何当知 飲食時節

所謂甜辛	服訶梨勒	風病羸損	則發風病	於食消時	肥膩辛熱	等分冬服	及以熱食	有風病者	冬則發動	其熱病者	及以湯藥	三月將養	令身得病	隨時歲中	消息飲食	三三本撰	一歲四時	是十二月	三月是秋	解說醫方	以害衆生	何時動風	治風及熱	若食食已
及以酥膩	等病忪服	補以酥膩	如是四大	則發熱病	飽食然後	甜酢肥膩	有熱病者	夏則忪服	其肺病者	秋則發動	多風病者	調和六大	有善醫師	諸根四大	是能益身	二二現時	若二二說	三三而說	三月是冬	而答其子	時父長者	何時動熱	水過肺病	身火不滅
肺病忪服	三種妙藥	熱病下藥	隨三時發	食消已後	則發肺病	肺病春服	秋服冷甜	肥膩鹹酢	春則增劇	等分病者	夏則發動	隨病飲食	隨順四時	代謝增損	醫方所說	隨是時節	足滿六時	從如是數	三月是春	三月是夏	即以偈頌	何時動水	及以等分	云何當知

随能吐葉 若風熱病 肺病等分

違時而発 应当任師 籌量随病

飲食湯藥

善女天 爾時流水長者子 問其父医四大増損 因是得了一切医

方 時長者子知医方已 遍至国内城邑聚落 在在处处随有衆生病

苦者所 軟言慰喻作如是言 我是医师我是医师 善知方藥 今当

為汝療治救濟悉令除愈 善女天 爾時衆生聞長者子軟言慰喻許為

治病 心生歡喜踊躍無量 時有百千無量衆生 遇極重病 直聞是

言 心歡喜故 種種所患即得除差 平復如本氣力充実 善女天

復有無量百千衆生 病苦深重難除差者 即共來至長者子所 時長

者子 即以妙藥授之令服 服已除差亦得平復 善女天 是長者子

於其国内治諸衆生所有病苦悉得除差

金光明經卷第三

金光明經卷第四 北涼三蔵法師曇無讖訳

金光明經流水長者子品第十六

仏告樹神 爾時流水長者子 於天自在光王国内 治一切衆生無

量苦患已 令其身体平復如本 受諸快樂 以病除故多設福業 修

行布施 尊重恭敬是長者子 作如是言 善哉長者 能大增長福德

之事 能益衆生無量壽命 汝今真是大医之王 善治衆生無量重病

必是菩薩善解方藥 善女天 時長者子 有妻名曰水空龍蔵 而生

二子 一名水空 二名水蔵 時長者子將是二子 次第遊行城邑聚

落 最後到一大空沢中 見諸虎狼狐犬鳥獸多食肉血 悉皆一向馳

奔而去 時長者子作是念言 是諸禽獸何因縁故一向馳走 我当随

後逐而觀之 時長者子遂便随逐 見有一池其水枯涸 於其池中多

有諸魚 時長者子見是魚已生大悲心 時有樹神示現半身 作如是

言 善哉善哉 大善男子 此魚可愍汝可与水 是故号汝名为流水
復有二縁名为流水 一能流水 二能与水 汝今应当随名定実 時
長者子問樹神言 此魚頭数为有几所 樹神答言 其数具足足滿十
千 善女天 爾時流水聞是数已 倍增益生大悲心 善女天 時
此空池为日所曝唯少水在 是十千魚将入死門 四向宛転見是長者
心生恃頼 随是長者所至方面 随逐瞻視目未曾捨 是時長者馳趣
四方 推求索水了不能得 便四顧望見有大樹尋取枝葉 還到池上
与作陰涼 作陰涼已復更推求是池中水本從何來 即出四向周遍求
覓莫知水処 復更疾走遠至余処 見一大河名曰水生 爾時復有諸
余惡人 為捕此魚故 於上流懸險之処 決棄其水不令下過 然其
決処懸險難補 計当修治經九十日 百千人功猶不能成 況我一身
時長者子 速疾還反至大王所 頭面礼拜却住一面 合掌向王説其
因縁 作如是言 我為大王国土人民治種種病 漸漸遊行至彼空沢
見有一池其水枯涸 有十千魚為日所曝 今日困厄将死不久 惟願
大王 借二十大象令得負水濟彼魚命 如我与諸病人寿命 爾時大
王即勅大臣 速疾供給 爾時大臣奉王告勅 語是長者 善哉大士
汝今自可至象厩中随意選取 利益衆生令得快楽 是時流水及其二
子 将二十大象 從治城人借索皮囊 疾至彼河上流決処 盛水象
負 馳疾奔還至空沢池 從象背上下其囊水写置池中 水遂弥滿還
復如本 時長者子 於池四辺彷徨而行 是魚爾時亦復随逐循岸而
行時長者子 復作是念 是魚何縁随我而行 是魚必為飢火所惱
復欲從我求索飲食 我今当与 善女天 爾時流水長者子 告其子
言 汝取一象最大力者 速至家中啓父長者 家中所有可食之物
乃至父母飲噉之分 及以妻子奴婢之分 一切聚集悉載象上急速來
還 爾時二子如父教勅 乘最大象往至家中 白其祖父説如上事

爾時二子 収取家中可食之物 載象背上疾還父所至空沢池 時長
者子見其子還心生歡喜踊躍無量 從子辺取飲食之物散着池中 与
魚食已即自思惟 我今已能与此魚食令其飽滿 未來之世当施法食
復更思惟 曾聞過去空閑之處有一比丘 誦讀大乘方等經典 其經
中說 若有衆生臨命終時 得聞寶勝如來名号即生天上 我今当為
是十千魚解說甚深十二因緣 亦当称說寶勝仏名 時閻浮提中有二
種人 一者深信大乘方等 二者毀訾不生信樂 時長者子作是思惟
我今当入池水之中為是諸魚說深妙法 思惟是已 即便入水作如是
言 南無過去寶勝如來應供正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈
夫天人師仏世尊 寶勝如來本往昔時 行菩薩道作是誓願 若有衆
生 於十方界臨命終時聞我名者 当令是輩即命終已尋得上生三十
三天 爾時流水復為是魚 解説如是甚深妙法 所謂無明緣行 行
緣識 識緣名色 名色緣六入 六入緣觸 觸緣受 受緣愛 愛緣
取 取緣有 有緣生 生緣老死憂悲苦恼 善女天 爾時流水長者
子及其二子 說是法已即共還家 是長者子復於後時 賓客聚會醉
酒而臥 爾時其地卒大震動 時十千魚同日命終 既命終已生忉利
天 既生天已作是思惟 我等以何善業因緣 得生於此忉利天中
復相謂言 我等先於閻浮提内 墮畜生中受於魚身 流水長者子
与我等水及以飲食 復為我等解説甚深十二因緣 并称寶勝如來名
号 以是因緣令我等輩得生此天是故我等今当往至長者子所報恩供
養 爾時十千天子 從忉利天下閻浮提 至流水長者子大医王家
時長者子在樓屋上露臥眠睡 是十千天子 以十千真珠天妙瓔珞置
其頭辺 復以十千置其足辺 復以十千置右脇辺 復以十千置左脇
辺 雨曼陀羅華摩訶曼陀羅華 積至于膝 作種種天樂出妙音声
閻浮提中 有睡眠者皆悉覺寤 流水長者子亦從睡眠 是十千天子

於上空中飛騰遊行 於天自在光王國內 妃妃皆雨天妙蓮華 是諸
天子復至本処空沢池所復雨天華 便從此没還忉利宮 随意自在受
天五欲 時閻浮提過是夜已 天自在光王 問諸大臣 昨夜何緣
示現如是淨妙瑞相有大光明 大臣答言 大王當知 忉利諸天於流
水長者子家 兩四十四千真珠瓔珞及不可計曼陀羅華 王即告臣 卿
可往至彼長者家善言誘諭喚令使來 大臣受勅即至其家 宣王教令
喚是長者 是時長者尋至王所 王問長者 何緣示現如是瑞相 長
者子言 我必定知是十千魚其命已終 時大王言 今可遣人審實是
事 爾時流水 尋遣其子至彼池所 看是諸魚死活定實 爾時其子
聞是語已 向於彼池既至池已 見其池中多有摩訶曼陀羅華 積聚
成積 其中諸魚悉皆命終 見已即還白其父言 彼諸魚等悉已命終
爾時流水知是事已 復至王所作如是言 是十千魚悉皆命終 王聞
是已心生歡喜 爾時世尊 告道場菩提樹神 善女人 欲知爾時流
水長者子 今我身是 長子水空 今羅睺羅是 次子水蔵 今阿難
是 時十千魚者 今十千天子是 是故我今為其授阿耨多羅三藐三
菩提記 爾時樹神現身者 今汝身是

金光明經捨身品第十七

爾時道場菩提樹神復白佛言 世尊 我聞世尊過去修行菩薩道時
具受無量百千苦行 捐捨身命肉白骨髓 惟願世尊 少說往昔苦行
因緣 為利衆生受諸快樂 爾時世尊即現神足 神足力故令此大地
六種震動 於大講堂衆會之中 有七宝塔從地湧出 衆寶羅網彌覆
其上 爾時大衆見是事已生希有心 爾時世尊 即從座起禮拜是塔
恭敬圍繞還就本座 爾時道場菩提樹神白佛言 世尊 如來世雄出
現於世 常為一切之所恭敬 於諸衆生最勝最尊 何因緣故禮拜是
塔 佛言 善女人 我本修行菩薩道時 我身舍利安止是塔 因由

是身令我早成阿耨多羅三藐三菩提 爾時仏告尊者阿難 汝可開塔
取中舍利示此大衆 是舍利者 乃是無量六波羅蜜功德所熏 爾時
阿難 聞仏教勅即往塔所 禮拜供養開其塔戸 見其塔中有七宝函
以手開函 見其舍利色妙紅白 而白仏言 世尊 是中舍利其色紅
白 仏告阿難 汝可持來 此是大士真身舍利 爾時阿難即拳宝函
還至仏所持以上仏 爾時仏告一切大衆 汝等今可禮是舍利 此舍
利者是戒定慧之所熏修甚難可得最上福田 爾時大衆聞是語已 心
懷歡喜即從座起 合掌敬礼大士舍利 爾時世尊 欲為大衆斷疑網
故 說是舍利往昔因縁 阿難 過去之世有王名曰摩訶羅陀 修行
善法善治国土無有怨敵 時有三子端正微妙 形色殊特 威徳第一
第一大子名曰摩訶波那羅 次子名曰摩訶提婆 小子名曰摩訶薩埵
是三王子 於諸園林遊戲觀看 次第漸到一大竹林憩駕止息 第一
王子作如是言 我於今日心甚怖懾 於是林中將無衰損 第二王子
復作是言 我於今日不自惜身 但離所愛心憂愁耳 第三王子復作
是言 我於今日獨無怖懾亦無愁惱 山中空寂神仙所讚 是処閑靜
能令行人安隱受樂 時諸王子說是語已 転復前行見有一虎 適産
七日而有七子 罔繞周匝飢餓窮悴 身体羸瘦命將欲絶第一王子
見是虎已 作如是言 怪哉此虎産来七日 七子罔繞不得求食 若
為飢逼必還噉子 第三王子言 此虎經常所食何物 第一王子言
此虎唯食新熱肉血 第三王子言 君等誰能与此虎食 第二王子言
此虎飢餓身体羸瘦 窮困頓乏余命無幾 不容余処為其求食 設余
求者命必不濟 誰能為此不惜身命 第一王子言 一切難捨不過己
身 第二王子言 我等今者以貪惜故 於此身命不能放捨 智慧薄
少故於是事而生驚怖 若諸大士欲利益他 生大悲心為衆生者 捨
此身命不足為難 時諸王子心大愁憂 久住視之目未曾捨 作是觀

已尋便離去 爾時第三王子 作是念言 我今捨身時已到矣 何以
故 我從昔來多棄是身都無所為 亦常愛護處之屋宅 又復供給衣
服飲食臥具醫藥象馬車乘 隨時將養令無所乏 而不知恩反生怨害
然復不免無常敗壞 復次是身不堅無所利益 可惡如賊猶若行廁
我於今日 當使此身作無上業 於生死海中作大橋梁 復次若捨此
身 即捨無量癰疽瘰癧疾百千怖畏 是身唯有大小便利 是身不堅如
水上沫 是身不淨多諸虫戶 是身可惡筋纏血塗 皮骨髓腦共相連
持 如是觀察甚可患厭 是故我今應當捨離 以求寂滅無上涅槃
永離憂患無常變異 生死休息無諸塵累 無量禪定智慧功德 具足
成就微妙法身 百福莊嚴諸仏所讚 証成如是無上法身 與諸衆生
無量法樂 是時王子勇猛堪任 作是大願 以上大悲熏修其心 慮
其二兄心懷怖懼 或恐固遮為作留難 即便語言 兄等今者可與眷
屬還其所止 爾時王子摩訶薩埵 還至虎所脫身衣裳置竹枝上 作
是誓言 我今為利諸衆生故 証於最勝無上道故 大悲不動捨難捨
故 為求菩提智所讚故 欲度三有諸衆生故欲滅生死怖畏熱惱故
是時王子作是誓已 即自放身臥餓虎前 是時王子以大悲力故虎無
能為 王子復作如是念言 虎今羸瘦身無勢力 不能得我身血肉食
即起求刁周遍求之了不能得 即以乾竹刺頸出血 於高山上投身虎
前 是時大地六種震動 日無精光如羅睺羅阿修羅王捉持障蔽 又
兩雜華種種妙香 時虛空中有諸余天 見是事已心生歡喜歎未曾有
讚言 善哉善哉 大士 汝今真是行大悲者 為衆生故能捨難捨
於諸學人第一勇健 汝已為得諸仏所讚 常樂住處不久當証無惱無
熱清涼涅槃 是虎爾時見血流出汚王子身 即便舐血噉食其肉唯留
余骨 爾時第一王子見地大動 為第二王子而説偈言

震動大地 及以大海 日無精光

如に有よ覆ふ蔽へい 於お上じやう虛こ空くう 雨う諸しよ華け香かう

必ひ是ぜ我が弟だい 捨しや所しよ愛あい身しん 第だい二に王わう子じ復ふ說せつ偈げ言ごん

彼ひ虎こ產さん來らい 已い經きやう七しち日にち 七しち子し困い繞にやう

窮ぐう無む飲おん食じき 氣き力りき羸い損そん 命みやう不ふ云うん遠おん

小しやう弟だい大だい悲ひ 知ち其こ窮ぐう悴すい 懼く不ふ堪かん忍にん

還げん食じき其こ子し 恐く定じやう捨しや身しん 以い救く彼ひ命みやう

時じ二に王わう子じ心しん大だい愁じゆ怖ふ 涕たい泣きゆう悲ひ歎たん容よう貌みやう憔悴しやうすい 復ふ共ぐう相そう將しやう還げん至し虎こ所しよ 見けん

弟だい所しよ着じやく帔ひ服ふく衣え裳しやう 皆かい悉しつ在ざい一いち竹ちく枝し之し上じやう 骸がい骨こつ髮ほつ爪そう布ふ散さん狼ろう藉じやく 流る血けつ処しよ

処しよ遍へん汚お其こ地じ 見けん已い悶もん絕ぜつ不ふ自じ勝しやう持じ 投とう身しん骨こつ上じやう良ろう久く乃ない蘇そ 即そく起き拳こ首しゆ号かう

天てん而に哭こく 我が弟だい幼よう稚ち才さい能のう過か人にん 特とく為い父ふ母も之し所しよ愛あい念ねん 奄えん忽こつ捨しや身しん以い飼い餓が

虎こ 我が今こん還げん宮ぐう 父ふ母も說せつ問もん当とう云うん何が答とう 我が寧にやう在ざい此し併ひやう命みやう一いつ処しよ 不ふ忍にん見けん是ぜ

骸がい骨こつ髮ほつ爪そう 何が心しん捨しや離り還げん見けん父ふ母も妻さい子し眷けん屬ぞく朋ぼう友う知ち識しき 時じ二に王わう子じ悲ひ号かう慟おう

惱のう漸ぜん捨しや而に去こ 時じ小しやう王わう子じ所しよ將しやう侍じ從じゆう 各かく散さん諸しよ方ほう互ご相そう謂い言ごん 今こん者しや我が天てん為い

何が所しよ在ざい 爾に時じ王わう妃ひ於お睡すい眠みん中ちゆう 夢む乳にゆう被び割かつ牙げ齒し墮だ落らく 得とく三さん鴿ごう雛すう一いち為い鷹やう

食じき 爾に時じ王わう妃ひ 大だい地じ動どう時じ即じそく便べん驚きやう寤ご 心しん生しやう愁じゆう怖ふ而に說せつ偈げ言ごん

今こん日にち何が故こ 大だい地じ大だい水すい 一いつ切さい皆かい動どう

物もつ不ふ安あん所しよ 日にち無む精しやう光かう 如にやう有ふく覆へい蔽へい

我が心しん憂う苦く 目もく睫しやう瞞にん動どう 如にやう我が今こん者しや

所しよ見けん瑞ずい相そう 必ひつ有う災さい異い 不ふ祥しやう苦く惱のう

於お是ぜ王わう妃ひ說せつ是ぜ偈げ言ごん 時じ有しやう青え衣さい在ざい外がい已い聞もん王わう子じ消しやう息そく 心しん驚きやう惶ほう怖ふ尋じん即じそく

入にゆう内ない 啓けい白びやく王わう妃ひ作さ如に是ぜ言ごん 向かう者しや在ざい外がい聞もん諸しよ侍じ從じゆう推すい覓みやく王わう子じ不ふ知ち所しよ在ざい

王わう妃ひ聞もん已い生しやう大だい憂う惱のう 涕たい泣きゆう滿まん目もく至し大だい王わう所しよ 我が於お向かう者しや傳でん聞もん外がい人にん 失しつ我が

最さい小しやう所しよ愛あい之し子し 大だい王わう聞もん已い而に復ふ悶もん絕ぜつ 悲ひ哽きやう苦く惱のう攣れん淚るい而に言ごん 如にやう何が今こん日にち

失しつ我が心しん中ちゆう所しよ愛あい重じゆう者しや 爾に時じ世せ尊そん欲よく重じゆう宣せん此し義ぎ 而に說せつ偈げ言ごん

我が於お往わう昔じやく 無む量りやう劫かう中ちゆう 捨しや所しよ重じゆう身しん

妃后 <small>ひぐさい</small> 嫪女 <small>にょ</small>	是時 <small>ぜじ</small> 王子 <small>おうじ</small>	共相 <small>ぐそう</small> 噴洒 <small>ふんしゃ</small>	亦生 <small>やくしやう</small> 悲慟 <small>ひどう</small>	生狂 <small>しやうかう</small> 痴心 <small>ちしん</small>	以灰 <small>いけ</small> 塵土 <small>じんど</small>	見是 <small>けんぜ</small> 事已 <small>じい</small>	処処 <small>しよしよ</small> 逆血 <small>ひやくけつ</small>	血汚 <small>けつお</small> 其口 <small>きく</small>	漸漸 <small>ぜんぜん</small> 推求 <small>すいぐ</small>	故在 <small>こざい</small> 竹林 <small>ちくりん</small>	世間 <small>せけん</small> 皆闇 <small>かいあん</small>	驚諸 <small>きやうしよ</small> 虫獸 <small>ちゆうじゆう</small>	是時 <small>ぜじ</small> 大地 <small>だいち</small>	自投 <small>じとう</small> 虎前 <small>こぜん</small>	儻能 <small>たうのう</small> 還食 <small>げんじき</small>	所重 <small>しよじゆう</small> 之身 <small>ししん</small>	時勝 <small>じしやう</small> 大士 <small>だいち</small>	至一 <small>しいつく</small> 空山 <small>かうせん</small>	大波 <small>だいは</small> 那羅 <small>なら</small>	摩訶 <small>まか</small> 薩埵 <small>さつた</small>	是王 <small>ぜおう</small> 有子 <small>ゆうし</small>	有大 <small>うだい</small> 國王 <small>こくおう</small>	常捨 <small>じやうしゃ</small> 難捨 <small>なんしゃ</small>	以求 <small>いぐ</small> 菩提 <small>ぼだい</small>	若為 <small>にやくい</small> 國王 <small>こくおう</small>	以求 <small>いぐ</small> 菩提 <small>ぼだい</small>	其王 <small>ごおう</small> 名曰 <small>みやうわつ</small>	能大 <small>のうだい</small> 布施 <small>ふせ</small>	復有 <small>ぶゆう</small> 二兄 <small>にきやう</small>	次名 <small>しみやう</small> 大天 <small>だいてん</small>	見新 <small>けんしん</small> 產虎 <small>さんこ</small>	生大 <small>しやうだい</small> 悲心 <small>ひしん</small>	此虎 <small>しこ</small> 或為 <small>わくい</small>	自所 <small>じしよ</small> 生子 <small>しやうし</small>	為令 <small>いりやう</small> 虎子 <small>こし</small>	及諸 <small>ぎつしよ</small> 大山 <small>だいせん</small>	虎狼 <small>ころう</small> 獅子 <small>しし</small>	無有 <small>むゆう</small> 光明 <small>こうみやう</small>	心懷 <small>しんね</small> 憂惱 <small>ゆうのう</small>	遂至 <small>ずいし</small> 虎所 <small>こしよ</small>	又見 <small>うけん</small> 骸骨 <small>がいこつ</small>	狼藉 <small>ろうじやく</small> 在地 <small>じ</small>	心更 <small>しんきやう</small> 悶絕 <small>もんぜつ</small>	自塗 <small>じず</small> 塗身 <small>ふんしん</small>	所將 <small>しよしやう</small> 侍從 <small>じじゆう</small>	失声 <small>しつしやう</small> 号哭 <small>ごうこく</small>	然後 <small>ねんご</small> 蘇息 <small>そそく</small>	当捨 <small>とうしゃ</small> 身時 <small>しんじ</small>	眷屬 <small>けんぞく</small> 五百 <small>ごひやく</small>	共相 <small>ぐそう</small> 娛樂 <small>ごらく</small>	正值 <small>しやうち</small> 後宮 <small>ごぐう</small>	而復 <small>にぶ</small> 得起 <small>とくき</small>	互以 <small>ごいり</small> 冷水 <small>りやうすい</small>	覩見 <small>とけん</small> 是事 <small>ぜじ</small>	忘失 <small>もうしつ</small> 正念 <small>しやうねん</small>	自覺 <small>じびやく</small> 於地 <small>おじ</small>	時二 <small>じに</small> 王子 <small>おうじ</small>	髮毛 <small>ほつもう</small> 爪齒 <small>そうし</small>	見虎 <small>けんこ</small> 虎子 <small>こし</small>	愁苦 <small>じゆく</small> 涕泣 <small>たいきゆう</small>	是時 <small>ぜじ</small> 二兄 <small>にきやう</small>	四散 <small>しさん</small> 馳走 <small>ちそう</small>	皆悉 <small>かいしつ</small> 震動 <small>しんどう</small>	得全 <small>とくぜん</small> 性命 <small>しやうみやう</small>	即上 <small>そくじやう</small> 高山 <small>こうせん</small>	飢餓 <small>けが</small> 所逼 <small>しよひつ</small>	我今 <small>がこん</small> 當捨 <small>とうしゃ</small>	飢窮 <small>けぐう</small> 無食 <small>むじき</small>	三人 <small>さんにん</small> 同遊 <small>どうゆう</small>	長者 <small>ちやうじや</small> 名曰 <small>みやうわつ</small>	其子 <small>ごし</small> 名曰 <small>みやうわつ</small>	摩訶 <small>まか</small> 羅陀 <small>らだ</small>	我念 <small>がねん</small> 宿命 <small>しゆくみやう</small>	及作 <small>ぎゆう</small> 王子 <small>おうじ</small>
---	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	---	--	--	---	--	--	--	---	--	---	---	--	---	--	---	--	--	---	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	--	---	--	---	---	--	--	---	--	--	---	--	--	--	---	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	--	---	--	---

爾時大王	悼惶如是	不久自当	今難可見	如是大士	今是王子	聞是声已	声動天地	悉皆聚集	所愛子故	王聞是語	說是語已	願速遣人	即生憂惱	有鷹飛來	在我懷抱	願速遣人	見所愛子	我見如是	俱時汁出	憂愁盛火	悲泣而言	於是王妃	痛如針刺	王妃是時
即從座起	而復悲号	得定消息	已有諸人	常出軟語	為活來耶	驚愕而出	爾時城内	在王左右	其王大臣	復生憂惱	即時悶絕	推求我子	我今愁怖	奪我而去	其最小者	求覓我子	今以身命	不祥瑞相	身體苦切	今來燒我	大王今当	疾至王所	心生愁惱	兩乳汁出
以水洒妃	哀動神祇	諸人爾時	入林推求	為衆所愛	為已死亡	各相謂言	所有人民	哀哭悲号	及諸眷属	以不得見	而復躄地	是時王妃	恐命不濟	夢是事已	可適我心	夢三鵠雛	奉上大王	恐更不復	如被針刺	我今二乳	諦聽諦聽	其声微細	似喪愛子	一切肢節

求覓其子	是時大王	無量諸人	即出其城	憂苦所切	即便嚴駕	莫大憂愁	周遍東西	即告其妃	三子之中	失所愛子	二乳一時	能堪是苦	我所見夢	破碎如塵	不凶一旦	而殺汝耶	將非是我	猶淨蓮華	而見如是	捨我終亡	可惜我子	我子今者	念其子故	良久乃蘇
煩惋心乱	既出城已	哀号動地	覓所愛子	雖在大衆	出其宮殿	大王如是	推求覓子	我今當遣	必定失一	夢三鴿雛	汗自流	如我所夢	已為得報	不令我子	遇斯禍對	我子面目	昔日怨讐	誰壞汝身	諸苦煩事	云何我身	形色端正	倍復懊惱	為死活耶	還得正念
靡知所在	四向顧望	尋從王後	爾時亦有	顏貌憔悴	心生愁惱	慰喻妃已	汝今且可	大臣使者	爾時大王	鷹奪一去	必定是我	牙齒墮落	直我無情	喪失身命	寧使我身	淨如滿月	挾本業緣	使令分離	善子妙色	不先薨沒	如何一旦	心無暫捨	爾時王妃	微声問王

望見四方 <small>もうけんしほう</small>	洒其身上 <small>しゃごしんじょう</small>	迷悶失志 <small>めいもんしつし</small>	見二王子 <small>けんにおうじ</small>	復有臣来 <small>ふうおんらい</small>	良久乃蘇 <small>ろうくないそ</small>	諸臣眷属 <small>しよじんけんぞく</small>	失念躄地 <small>しつねんびやくじ</small>	是時大王 <small>ぜじだいおう</small>	已為都尽 <small>いいとじん</small>	虎飢所逼 <small>こけしよひつ</small>	証成菩提 <small>しょうじょうぼだい</small>	癸大誓願 <small>ほつだいせいがん</small>	恐還食子 <small>くげんじきし</small>	第三王子 <small>だいさんおうじ</small>	一子已終 <small>いちしじゆう</small>	身所着衣 <small>しんしよじやくえ</small>	復有臣来 <small>ふうおんらい</small>	不久当至 <small>ふくとうし</small>	作如是言 <small>さによぜごん</small>	先所遣臣 <small>せんしよけんじん</small>	倍生懊惱 <small>ばいしよおうのう</small>	爾時大王 <small>にじだいおう</small>	血汚其衣 <small>けつおごえ</small>	最後遙見 <small>さいごようけん</small>
大火熾然 <small>だいかしねん</small>	良久之頃 <small>ろうくしきょう</small>	自投於地 <small>じとうお</small>	愁憂苦毒 <small>じゅうくどく</small>	而白王言 <small>にびやくおうごん</small>	復起挙首 <small>ふきこしゅ</small>	亦復如是 <small>やくふによぜ</small>	憂愁盛火 <small>うじゅうじょうか</small>	聞臣語已 <small>もんじんごい</small>	唯有骸骨 <small>ゆいうがいこつ</small>	便起噉食 <small>べんきかんじき</small>	即上高処 <small>そくじょうこうしよ</small>	当度衆生 <small>とうどしゅじょう</small>	見是虎已 <small>けんぜこい</small>	見虎新産 <small>けんこしんさん</small>	二子雖存 <small>にしすいぞん</small>	垢膩塵汚 <small>くにじんお</small>	見王愁苦 <small>けんのおうじゅうく</small>	令王得見 <small>りやうおうとくけん</small>	願王莫愁 <small>がんおうまくじゅう</small>	尋復来至 <small>じんぶらいし</small>	举首号叫 <small>こしゅごうきやう</small>	摩訶羅陀 <small>まからだ</small>	灰糞塗身 <small>けふんずしん</small>	有一信来 <small>ういちしんらい</small>
扶持暫起 <small>ふじざんき</small>	及還蘇息 <small>ぎやうげんそそく</small>	臣即求水 <small>じんそくぐすい</small>	悲号涕泣 <small>ひごうたいきゅう</small>	向於林中 <small>こうおりんちゆう</small>	号天而哭 <small>ごうてんにこく</small>	以水洒王 <small>いすいしやおう</small>	熾然其身 <small>しねんごしん</small>	轉復悶絶 <small>てんふもんぜつ</small>	狼藉在地 <small>ろうじやくざいじ</small>	一切血肉 <small>いっさいけつにく</small>	投身虎前 <small>とうしんこぜん</small>	於未来世 <small>おみらいせ</small>	深生悲心 <small>じんしゅうひしん</small>	飢窮七日 <small>けぐうしちにち</small>	哀悴無頼 <small>あいすいむらい</small>	大王当知 <small>だいおうとうち</small>	顔貌憔悴 <small>げんみょうしやうすい</small>	須臾之頃 <small>しゆゆしきやう</small>	諸子猶在 <small>しよしゆうざい</small>	既至王所 <small>きしおうしよ</small>	仰天而哭 <small>ごうてんにこく</small>	見是使已 <small>けんぜし</small>	悲号而至 <small>ひごうにし</small>	頭蒙塵土 <small>ずもうじんど</small>

悲 <small>ひ</small> 号 <small>ごう</small> 涕 <small>たい</small> 泣 <small>きゅう</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 大 <small>だい</small> 王 <small>おう</small>	今 <small>こん</small> 五 <small>ご</small> 比 <small>び</small> 丘 <small>く</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 虎 <small>こ</small> 者 <small>しゃ</small>	今 <small>こん</small> 弥 <small>み</small> 勒 <small>ろく</small> 是 <small>ぜ</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 王 <small>おう</small> 妃 <small>ひ</small>	摩 <small>ま</small> 訶 <small>か</small> 羅 <small>ら</small> 陀 <small>だ</small>	捨 <small>しゃ</small> 身 <small>しん</small> 飼 <small>じ</small> 虎 <small>こ</small>	汝 <small>にょ</small> 今 <small>こん</small> 当 <small>とう</small> 知 <small>ち</small>	速 <small>そく</small> 令 <small>りょう</small> 二 <small>に</small> 子 <small>し</small>	抱 <small>ほう</small> 持 <small>じ</small> 二 <small>に</small> 子 <small>し</small>	号 <small>ごう</small> 天 <small>てん</small> 扣 <small>く</small> 地 <small>じ</small>	欲 <small>よく</small> 至 <small>し</small> 彼 <small>ひ</small> 林 <small>りん</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 大 <small>だい</small> 王 <small>おう</small>	慰 <small>い</small> 諭 <small>ゆ</small> 其 <small>ご</small> 心 <small>しん</small>	心 <small>しん</small> 肝 <small>かん</small> 分 <small>ぶん</small> 裂 <small>れつ</small>	急 <small>きゅう</small> 還 <small>げん</small> 宮 <small>ぐう</small> 殿 <small>でん</small>	我 <small>が</small> 宜 <small>ぎ</small> 速 <small>そく</small> 往 <small>おう</small>	之 <small>し</small> 所 <small>しょ</small> 焚 <small>ほん</small> 燒 <small>しょう</small>	其 <small>ご</small> 余 <small>よ</small> 二 <small>に</small> 子 <small>し</small>	我 <small>が</small> 所 <small>しょ</small> 愛 <small>あい</small> 重 <small>じゅう</small>	憂 <small>う</small> 惱 <small>のう</small> 涕 <small>たい</small> 泣 <small>きゅう</small>	以 <small>い</small> 離 <small>り</small> 愛 <small>あい</small> 子 <small>し</small>	乍 <small>じゃ</small> 復 <small>ふ</small> 讚 <small>さん</small> 歎 <small>たん</small>	尋 <small>じん</small> 復 <small>ふ</small> 躋 <small>じやく</small> 地 <small>じ</small>
悉 <small>しつ</small> 皆 <small>かい</small> 脱 <small>だつ</small> 身 <small>しん</small>	摩 <small>ま</small> 訶 <small>か</small> 羅 <small>ら</small> 陀 <small>だ</small>	及 <small>ぎゅう</small> 舍 <small>しゃ</small> 利 <small>り</small> 弗 <small>ほつ</small>	今 <small>こん</small> 瞿 <small>く</small> 夷 <small>い</small> 是 <small>ぜ</small>	第 <small>だい</small> 二 <small>に</small> 王 <small>おう</small> 子 <small>じ</small>	今 <small>こん</small> 摩 <small>ま</small> 耶 <small>や</small> 是 <small>ぜ</small>	於 <small>お</small> 今 <small>こん</small> 父 <small>ふ</small> 王 <small>おう</small>	今 <small>こん</small> 我 <small>が</small> 身 <small>しん</small> 是 <small>ぜ</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 王 <small>おう</small> 子 <small>じ</small>	覲 <small>ごん</small> 見 <small>けん</small> 其 <small>ご</small> 母 <small>も</small>	悲 <small>ひ</small> 号 <small>ごう</small> 涕 <small>たい</small> 泣 <small>きゅう</small>	称 <small>しょう</small> 弟 <small>だい</small> 名 <small>みょう</small> 字 <small>じ</small>	即 <small>そく</small> 於 <small>お</small> 中 <small>ちゅう</small> 路 <small>ろ</small>	駕 <small>か</small> 乘 <small>じょう</small> 名 <small>みょう</small> 象 <small>ぞう</small>	可 <small>か</small> 使 <small>し</small> 終 <small>じゅう</small> 保 <small>ほ</small>	或 <small>わく</small> 能 <small>のう</small> 失 <small>しつ</small> 命 <small>みょう</small>	其 <small>ご</small> 母 <small>も</small> 在 <small>ざい</small> 後 <small>ご</small>	至 <small>し</small> 彼 <small>ひ</small> 林 <small>りん</small> 中 <small>ちゅう</small>	或 <small>わく</small> 能 <small>のう</small> 為 <small>い</small> 是 <small>ぜ</small>	今 <small>こん</small> 雖 <small>すい</small> 存 <small>ぞん</small> 在 <small>ざい</small>	無 <small>む</small> 常 <small>じょう</small> 大 <small>だい</small> 鬼 <small>き</small>	並 <small>びょう</small> 復 <small>ふ</small> 思 <small>し</small> 惟 <small>い</small>	其 <small>ご</small> 心 <small>しん</small> 迷 <small>めい</small> 悶 <small>もん</small>	其 <small>ご</small> 弟 <small>だい</small> 功 <small>こう</small> 德 <small>とく</small>	举 <small>こ</small> 首 <small>しゅ</small> 悲 <small>ひ</small> 哀 <small>あい</small>
御 <small>ご</small> 服 <small>ふく</small> 瓔 <small>よう</small> 珞 <small>らく</small>	及 <small>ぎゅう</small> 其 <small>ご</small> 妃 <small>ひ</small> 后 <small>ご</small>	目 <small>もつ</small> 犍 <small>けん</small> 連 <small>れん</small> 是 <small>ぜ</small>	時 <small>じ</small> 虎 <small>こ</small> 七 <small>しち</small> 子 <small>し</small>	今 <small>こん</small> 調 <small>ちよう</small> 達 <small>だつ</small> 是 <small>ぜ</small>	第 <small>だい</small> 一 <small>いち</small> 王 <small>おう</small> 子 <small>じ</small>	輸 <small>しゅ</small> 頭 <small>ず</small> 檀 <small>たん</small> 是 <small>ぜ</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 大 <small>だい</small> 王 <small>おう</small>	摩 <small>ま</small> 訶 <small>か</small> 薩 <small>さつ</small> 埵 <small>た</small>	仏 <small>ぶつ</small> 告 <small>ごう</small> 樹 <small>じゅ</small> 神 <small>じん</small>	随 <small>ずい</small> 路 <small>ろ</small> 還 <small>げん</small> 宮 <small>ぐう</small>	時 <small>じ</small> 王 <small>おう</small> 即 <small>そく</small> 前 <small>ぜん</small>	見 <small>けん</small> 其 <small>ご</small> 二 <small>に</small> 子 <small>し</small>	与 <small>よ</small> 諸 <small>しよ</small> 侍 <small>じ</small> 從 <small>じゅう</small>	余 <small>よ</small> 年 <small>ねん</small> 寿 <small>じゅう</small> 命 <small>みょう</small>	若 <small>にやく</small> 見 <small>けん</small> 二 <small>に</small> 子 <small>し</small>	憂 <small>う</small> 苦 <small>く</small> 逼 <small>ひつ</small> 切 <small>せつ</small>	迎 <small>ごう</small> 載 <small>さい</small> 諸 <small>しよ</small> 子 <small>し</small>	喪 <small>そう</small> 失 <small>しつ</small> 命 <small>みょう</small> 根 <small>こん</small>	而 <small>に</small> 為 <small>い</small> 憂 <small>う</small> 火 <small>か</small>	奄 <small>えん</small> 便 <small>べん</small> 吞 <small>どん</small> 食 <small>じき</small>	是 <small>ぜ</small> 最 <small>さい</small> 小 <small>しょう</small> 者 <small>しゃ</small>	氣 <small>き</small> 力 <small>りき</small> 憊 <small>てつ</small> 然 <small>ねん</small>	是 <small>ぜ</small> 時 <small>じ</small> 大 <small>だい</small> 王 <small>おう</small>	号 <small>ごう</small> 天 <small>てん</small> 而 <small>に</small> 哭 <small>こく</small>

与諸大衆 往竹林中 収其舍利
 即於此処 起七宝塔 是時王子
 摩訶薩埵 臨捨命時 作是誓願
 願我舍利 於未來世 過算數劫
 常為衆生 而作仏事 說是經時
 無量阿僧祇諸天及人 発阿耨多羅三藐三菩提心 樹神 是名礼
 塔往昔因縁 爾時仏神力故 是七宝塔即没不現
 金光明経讚仏品第十八

爾時無量百千萬億諸菩薩衆 從此世界至金寶蓋山王如来国土
 到彼土已 五体投地 為仏作礼 却住一面 合掌向仏 異口同音 而讚
 歎曰

如来之身	金色微妙	其明照耀
如金山王	身淨柔軟	如金蓮華
無量妙相	以自莊嚴	隨形之好
光飾其体	淨絜無比	如紫金山
円足無垢	如淨満月	其音清徹
妙如梵声	獅子吼声	大雷震声
六種清浄	微妙音声	迦陵頻伽
孔雀之声	清浄無垢	威徳具足
百福相好	莊嚴其身	光明遠照
無有斉限	智慧寂滅	無諸愛習
世尊成就	無量功徳	譬如大海
須弥宝山	為諸衆生	生憐愍心
於未来世	能与快樂	如来所説
第一深義	能令衆生	寂滅安隱

無有厭足	諸根清淨	無量苦惱	悉能遠照	如融真金	其明五色	無量無辺	如日千光	莊嚴其身	世尊百福	爾時信相菩薩	廻与衆生	不能宣一	我今略讚	功德智慧	尽思度量	不能説有	如是無量	功德智慧	安住正道	悉得解脱	能入一切	甘露妙法	能与衆生
髮紺柔軟	微妙第一	又与衆生	無量仏土	光明赫奕	青紅赤白	猶如無数	彌満虚空	色浄遠照	相好微妙	即於此会	証無上道	若我功德	如来功德	無量大海	不能得知	諸天世人	不可称計	大慈悲力	無諸憂苦	度於三有	無患窟宅	能開無上	無量快樂
猶孔雀項	衆生見者	上妙快樂	能滅衆生	通徹諸山	瑠璃頗梨	珍宝大聚	光明熾盛	視之無厭	功德千数	起	得聚集者	百千億分	一滴少分	如来所有	於無量劫	我等今者	精進方便	如来世尊	無量苦海	能令衆生	甘露法門	能演無上	

仏而説讚言

即於此会從座而起

偏袒右肩右膝着地

合掌向

善哉如来	諸衆生故	釈迦牟尼	時一現耳	希有希有	如須弥山	希有希有	希有希有	本性清淨	独拔而出	随順覺了	南無清淨	爾時道場	其色微妙	右旋宛轉	其德如日	於諸世界	功德成就	遍於諸方	亦為十方	受諸快樂	如來悉能	嚴飾其身	如是功德	功德莊嚴	如諸蜂王
諸根寂滅	宣說如是	為人中日	希有如来	仏出於世	希有希有	如来大海	希有希有	希有希有	成仏正覺	遠離一切	無上正覺	菩提樹神	如日処空	光明流出	処空明顕	齒白齋密	如須弥山	猶如日月	諸仏所讚	種種深妙	調伏衆生	種種功德	悉以聚集	無量三昧	集在蓮華
而復遊入	妙宝經典	為欲利益	無量大悲	如優曇華	仏無辺行	希有希有	希有希有	如来功德	知有非有	非法非道	甚深妙法	復説讚曰	如瑠璃珠	眉間毫相	猶如珂雪	在在示現	充滿虚空	其光遠照	功德莊嚴	令心柔軟	助成菩提	相好妙色	及以大慈	清淨大悲	

而讚歎言 にさんだんごん	爾時世尊 にじせそん	仏所行処 ぶつしよきやうしよ	一切縁覺 いっさいえんがく	無能知者 むのうちしや	如來行処 にょらいぎやうしよ	甘露法処 かんろほつしよ	如來行処 にょらいぎやうしよ	如水中月 にょすいちゆうがつ	聲聞之身 しやうもんしん	一切人天 いっさいにんでん	願賜我身 がんしがしん	以滅是火 いめつぜか	惟願世尊 ゆいがんせそん	欲見於仏 よっけんおぶつ	哀泣雨淚 あいきゆううるい	欲見於仏 よっけんおぶつ	我常於地 がじやうおぢ	樂見世尊 ぎやうけんせそん	狂愚心故 かうぐしんこ	亦皆空寂 やくかいくうじやく	如是一切 にょぜいっさい	身皆空寂 しんかいくうじやく	入於諸仏 にゅうおしよぶつ	善寂大城 ぜんじやくだいじやう
善哉善哉 ぜんざいぜんざい	從三昧起 じゆうさんまいき	惟願慈悲 ゆいがんじひ	亦不能知 やくふのうち	五通神仙 ごつうじんせん	微妙甚深 みみょうじんじん	能与衆生 のうよしゆじやう	淨如瑠璃 じやうにょるり	衆生之性 しゆじやうしじやう	猶如虛空 ゆうにょこくう	是故我今 ぜごがこん	常得見仏 じやうとくけんぶつ	世尊慈愍 せそんじみん	賜我慈悲 しがじひ	為是事故 いぜじこ	欲見於仏 よっけんおぶつ	我常修行 がじやうしゆぎやう	長跪合掌 じやうきがつしやう	常作誓願 じやうさせいがん	不能覺知 ふのうかくち	一切衆生 いっさいしゆじやう	無量諸法 むりやうしよほう	兩足世尊 りやうそくせそん	所行之處 しよぎやうしよ	無垢清淨 むくしやうじやう
樹神善女 じゆじんぜんによ	以微妙音 いみみょうおん	為我現身 いがげんしん	我今不疑 がこんふぎ	及諸聲聞 ぎつしよしやうもん	一切衆生 いっさいしゆじやう	無量快樂 むりやうけらく	入於無上 にゅうおむじやう	如夢所見 にょむしよけん	焰幻響化 えんげんきやうけ	渴仰欲見 かつごうよっけん	世尊常護 せそんじやうこ	悲心無量 ひしんむりやう	清冷法水 しやうりやうほうすい	憂火熾然 うかしねん	我常渴仰 がじやうかつごう	最上大悲 さいじやうだいひ	其心戀慕 ごしんれんぼ	不離仏日 ふりぶつにち	我常念仏 がじやうねんぶつ	性相亦空 しやうさうやくくう	推本性相 すいほんしやうさう	行処亦空 ぎやうしよやくくう	一切聲聞 いっさいしやうもん	甚深三昧 じんじんさんまい

汝於今日 快說是言 一切衆生
若聞此法 皆入甘露 無生法門

金光明經囑累品第十九

爾時釈迦牟尼仏 從三昧起現大神力 以右手摩諸菩薩摩訶薩頂
與諸天王及諸龍王二十八部散脂鬼神大將軍等 而作是言 我於無
量百千萬億恒河沙劫 修習是金光明微妙經典 汝等當受持誦誦
宣此法 復於閻浮提內無令斷絶 若有善男子善女人 於未來世中
有受持誦誦此經典者 汝等諸天常當擁護 當知是人於未來世無量
百千人天之中常受快樂 於未來世值遇諸仏 疾得証成阿耨多羅三
藐三菩提

爾時諸大菩薩 及天龍王二十八部散脂大將等 即從座起到於仏

前 五体投地俱発声言 如世尊勅當具奉行 如是三白 如世尊勅

當具奉行 於是散脂大將等 而白仏言 如世尊勅 若未來世中有

受持是經 若自書若使人書 我等与此二十八部諸鬼神等 常當隨

侍擁護隱蔽其身 是説法者皆悉消滅諸惡令得安隱 願不有慮 爾

時釈迦牟尼仏 現大神力 十方無量世界悉皆六種震動 是時諸仏

皆大歡喜 囑累是經故 讚美持法者 現無量神力 於是無量無辺

阿僧祇菩薩摩訶薩大衆及信相菩薩 金光金藏常悲法上等 及四天

大王十千天子 与道場菩提樹神堅牢地神及一切世間天人阿修羅等

聞仏所説 皆発無上菩提之道 踊躍歡喜作礼而去

金光明經卷第四

金光明經懺悔滅罪伝

昔温州治中張居道 滄州景城景人 未莅職日 因適女事屠宰諸

命 牛羊猪鷄鶩鴨之類 未踰一句 卒得重病絶音不語 因爾便死

唯心尚暖家人不即葬之經三夜便活 起坐索食 諸親非親隣里遠近

聞之 大小奔起 居道即説由縁 初見四人来 一人把棒 一人把索
一人把袋 一人着青 騎馬戴帽至門下馬 喚居道着前懷中一枚一張文
書以示居道 看乃是猪羊等同詞共訟居道 其詞曰 猪等雖前身積
罪 合受畜生之身 配在世間 自有年限 年滿罪畢自合成人 然
猪等自計受畜生身化時未到 遂被居道枉相屠害 時限欠少更歸畜
生 一箇罪身再遭刀机 在於幽法理不可当 請裁後有判差 司命
追過使人見居道看遍 即唱三人近前 一人以索繫居道咽 一人以
袋収居道氣 一人以棒打居道頭及縛両手 将去直行 一道向北
行至路半使人即語居道 吾被差来時檢爾算寿元不合死 但坐爾殺
爾許衆生被怨家逮訟 居道即報云 俗世肉眼但造罪不識善惡 但
見人俗殺生無數 不見此驗交報 而居道当其凶首緘口受死 当何
方便而求活路 自咎往悞悔 難可及使人曰 怨家詞主三十余頭專
在閻羅王門底懸精待至我輩入道当由其側非但王法嚴峻但見怨家
何由免其躡頓之苦 居道聞之弥增驚怕 步步倒地 前人掣繩挽之
後人以棒打之 居道曰 自計所犯誠難免脱 若為乞示余一計校
且得免逢怨家之面閻王峻法当如之何 使人語居道云 汝但能為所
殺衆生発心 願造金光明經四卷当得免脱 居道承教連声再唱 願
造金光明經四卷尽身供養 願怨家解釈 少時望見城門 使人引東
向入曲向北 見閻王庁前無億数人問弁答款 着枷被鎖連杻履械鞭
撻狼藉 哀声痛響不可聴聞 使人即過狀 閻王唱名出見王 曰此
人極大罪過 何為捉来遲脱 令此猪等再訴 急喚訴者将来 使人
走出諸処叫喚求覓所訴 命者不得 走来報王 諸処追覓猪等不見
王即更散遣人分頭求覓巡問曹府 咸悉称無 王即怙五道大神檢化
形案 少時有一主者把杖走来 其状云 依檢其日得司善報世人
張居道為殺生故 願造金光明經四卷依料其所遭殺並合乘此功德隨

業化形牒至准法処分者其張居道怨家訴者以其日准司善牒並判化從
人道生於世界訖 王既見狀極懷歡喜曰 居道雖殺衆生 能設方便
為其發願修造功德 令此債主便生人路 既無執對偏詞不可懸信判
放居道再歸生路 当宜善念 多造功德斷味止殺 勿復慳貪 惜財
不作 橋梁專為惡業 於是出城如從夢歸 居道当說此由緣 發心
造經一百余 人斷肉止殺不可計數 此經天下少本詢訪不獲 聘歷
諸方 遂於衛州禪寂寺檢得 抄写隨身供養 後居道及至当官之日
合家大小悉斷肉味 其温州安固県丞妻病 一年絶音不食 独自狂
語 口中唱痛叩頭死罪 状有所訴 居道聞之 為其夫說 如此之
状多 是怨家債命 文案未定故命不絶 自当思付省悟以来由縁所
問殺害身命 急為造金光明經分明懺唱此經 側近無本 唯居道家
有此經 県丞依遵其教 請本雇人 抄写未畢 妻便醒悟說云 状
如夢惛惛 常有猪鷄鷺鴨 一日三過 競來咬嚙 痛不可当 從來
応其到時遂乃至不見 唯有惑猪惑羊或鷄之類 皆是人身来与我別
云雖是怨家遭爾屠害以為我敬造功德 所以令我得化形成人 今与
怨家散不相逮 債語訖即去 因爾不復如此 病即輕差平復如本
当此之時温州一郡所養鷄猪鷺鴨肉用之徒咸悉放生 家家断肉人人
善念不立屠行 爰及比州隣県聞此並起淨行 不止一家 当今所殺
無所徵効者 斯是衆生業滿合死故 故無報応 只是尽其人身 還
作畜生 被他屠殺 若衆生日限未足 遭人殺者 立被訟訴世人卒
死 及羸病連年累月 眠中唱痛狂言或語 並是衆生執注 文案一
定方始命断 一切衆罪懺悔皆滅 唯有殺生懺悔不除 為有怨家專
心訟対自非為其條造經像或被人所遣或事計難禁殺事不已者当生慙
愧為其傷歎將刀所殺如割巴肉 或銜壳与人 取其財価為以豊足
皆須一本一造 分明懺唱 令此功德資及怨家早生人道 考訟自休

不復報逮ふぶほうたいたい

善男女等明当戒之ぜんなんによとうみやうとうかいし